

29

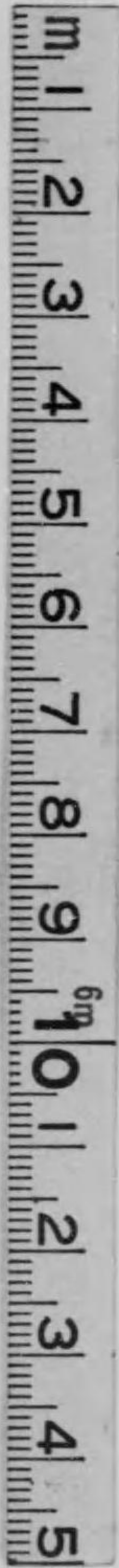
# 報 館

號 七 第

## 目 次

- 一、圖書の選擇……………長崎圖書館長 永山時英…一
- 二、長崎圖書館閱覽狀況……………六
- 三、閱覽人員表……………七
- 四、閱覽圖書冊數表……………八
- 五、新著和漢圖書目錄……………一
- 六、寄贈圖書及新聞……………五

長崎縣立長崎圖書館



# 始





本館規則抄

一、回覧文庫

(一) 本館内ナル郡、市、町、村長、公私立學校、公私立圖書館、青年會、處女會、其他本館ニ於テ適當ト認ムル官衙又ハ諸團體カラ請求ガアレバ早速廻付シマス、但シ片道ノ運賃ハ請求者ノ負擔デス  
(二) 請求者ハ左式願書ヲ要シマス、但葉書ヲ結構デス

回覧文庫廻付願

貴館規則ヲ遵守可致ニ付左記種類ノ圖書御廻付相成度候也  
年月日 何々長(又ハ何々代表者) 氏名 印

本館長宛

記

一、

備考 (1) 私立學校、私立圖書館、青年會又ハ處女會ヨリ請求ノ場合ハ第一回ニ限り市町村長又ハ公立學校校長ノ證明ヲ要シマス  
(2) 回覧文庫ノ留置期限ハ二ヶ月乃至五ヶ月デスカラ豫メ御決定ノ上願書ニ記入ヲ要シマス

二、圖書携出

一、本館内ニ住居シ左記資格アル方ハ本館ノ蔵書ヲ借出シテ自宅デ

閱覽スルコトが出来マス

(イ) 本館優待券所有者。(ロ) 官公吏及官公立學校職員。(ハ) 國縣郡市會議員。(ニ) 銀行會社等ノ要職ニアルモノ。(ホ) 滿十七歳以上ニシテ以上各項ノ一ノ資格アル保證人ヲ設クルモノ。(ヘ) 銀行預金又ハ郵便貯金ノ通帳ヲ擔保トシテ提出スルモノ  
(一) 本館圖書ノ館外借出ヲ希望セラル、方ハ左記書式ノ願書ヲ出シテ携出券ヲ買ツテ置カル、必要ガアリマス。携出券ハ館外貸出特許狀デアリマス。コレサヘ取ツテ置カルレバ本館ノ開館中ナレバ何時デモ希望ノ書ヲ借出スルコトが出来マス

圖書携出券付與願 (三錢切手封入ノコト)

貴館規則ヲ遵守可致ニ付圖書携出券御付與相成度候也  
昭和 年月日 住所職業 氏名 印

生年月日

三、館外携出ノ圖書冊數制限ハ長崎市内ハ一回ニ和裝ハ一種二冊、洋裝ハ一冊、和洋合セテ二冊トシ、地方ハ和裝一種三冊、洋裝一種二冊和洋合計三冊デアリマス。但特別ノ研究ニ必要アル場合ハ此限リデアリマセズ  
四、携出期間ハ長崎市内ハ十日、地方ハ二十日デアリマス。但シ手續サヘスレバ引續借用が出来マス  
五、携出券附與願ニ書載ノ資格其他ニ異動ガアツタ場合ニハ直ニ届出ヲ要シマス

圖書の選擇

館長 永山時英



讀書は精神の糧であつて吾人の心を豊富ならしめ、智的德的乃至肉體的向上發展に多大の資料を供給すると同時に各種多様な影響をも提供する。併しこの精神的糧食には往々にして普通の食物以上に多量の有害無益なる分子が含まれてゐる。されば圖書はその選擇に最も細心の注意を拂ひ、有害無益なるものを決して近づけないやうにすることが甚だ必要である。

最近の統計によれば新刊圖書の多い點では我が國は世界列國中第二位を占め(第一位は獨逸)、新聞雜誌の多いことには我國は世界無比といふことである。一見喜ぶべき現象のやうであるが、實はほめたことでないのみならず、却つて大に憂慮すべきことなのである。

世界列國中圖書館の最も普及發達してゐる所は北米合衆國であつて、國民の大多數が最も讀書趣味に富んでゐる處も亦同國である。然るに最近の統計表によれば新刊圖書數の多寡を以て云へば同國は列國中第五位に位し、新刊圖書數は我國のそれの約半数である。かゝる不思議なる現象は何に基因するかと云ふに、米國では圖書館が普及してゐて國民は皆圖書館の圖書を利用することが出来るので、各自圖書を購入する場合は甚だしい。(米國の各都市に書店の數の甚だしいといふことは之を裏書するものである)。そして圖書館は有益な圖書でなければ決して購入しない。其結果有害無益な本は需要者が少いから自然世

278-98



本館規則抄

一、回覧文庫

(一) 本縣内ナル郡、市、町、村長、公私立學校、公私立圖書館、青年會、處女會、其他本館ニ於テ適當ト認ムル官衙又ハ諸團體カラ請求ガアレバ早速廻付シマス。但シ片道ノ運費ハ請求者ノ負擔デス  
(二) 請求者ハ左式願書ヲ要シマス、但葉書ヲ結構デス

回覧文庫廻付願

貴館規則ヲ遵守可致ニ付左記種類ノ圖書御廻付相成度候也  
年月日 何々長(又ハ何々代表者) 氏名 印  
本館長 宛

記

一、

備考 (1) 私立學校、私立圖書館、青年會又ハ處女會ヨリ請求ノ場合ハ第一回ニ限り市町村長又ハ公立學校長ノ證明ヲ要シマス  
(2) 回覧文庫ノ留置期限ハ二月乃至五月デスカラ豫メ御決定ノ上願書ニ記入ヲ要シマス

二、圖書携出

一、本縣内ニ住居シ左記資格アル方ハ本館ノ藏書ヲ借出シテ自宅デ

閱覽スルコトガ出來マス

(イ) 本館優待券所有者。(ロ) 官吏及官公立學校職員。(ハ) 國縣郡市會議員。(ニ) 銀行會社等ノ要職ニアルモノ。(ホ) 滿十七歳以上ニシテ以上各項ノ一ノ資格アル保證人ヲ設タルモノ。(ヘ) 銀行預金又ハ郵便貯金ノ通帳ヲ擔保トシテ提出スルモノ  
(二) 本館圖書ノ館外借出ヲ希望セラル、方ハ左記書式ノ願書ヲ出シテ携出券ヲ買ツテ置カル、必要ガアリマス。携出券ハ館外貸出特許狀デアリマス。コレサヘ取ツテ置カルレバ本館ノ開館中ナレバ何時デモ希望ノ書ヲ借出スルコトガ出來マス

圖書携出券付與願 (三錢切手封入ノコト)

貴館規則ヲ遵守可致ニ付圖書携出券御付與相成度候也  
昭和 年 月 日 住所職業 氏名 印

生年月日

三、館外携出ノ圖書冊數制限ハ長崎市内ハ一回ニ和裝ハ一種二冊、洋裝ハ一冊、和洋合セテ二冊トシ、地方ハ和裝一種三冊、洋裝一種二冊和洋合計三冊デアリマス。但特別ノ研究ニ必要アル場合ハ此限りデアリマセズ  
四、携出期間ハ長崎市内ハ十日、地方ハ二十日デアリマス。但シ手續サヘスレバ引續借用ガ出來マス  
五、携出券附與願ニ書載ノ資格其他ニ異動ガアツタ場合ニハ直ニ届出ヲ要シマス

圖書の選擇

館長 永山時



讀書は精神の糧であつて吾人の心を豊富ならしめ、智的徳的乃至肉體的向上發展に多大の資料を供給すると同時に各種多様な影響をも提供する。併しこの精神的糧食には往々にして普通の食物以上に多量の有害無益なる分子が含まれてゐる。されば圖書はその選擇に最も細心の注意を拂ひ、有害無益なるものを決して近づけないやうにすることが甚だ必要である。

最近の統計によれば新刊圖書の多い點では我が國は世界列國中第二位を占め(第一位は獨逸)、新聞雜誌の多いことについては我國は世界無比といふことである。一見喜ぶべき現象のやうであるが、實はほめたことでないのみならず、却つて大に憂慮すべきことなのである。

世界列國中圖書館の最も普及發達してゐる所は北米合衆國であつて、國民の大多數が最も讀書趣味に富んでゐる處も亦同國である。然るに最近の統計表によれば新刊圖書數の多寡を以て云へば同國は列國中第五位に位し、新刊圖書數は我國のその約半數である。かゝる不思議なる現象は何に基因するかと云ふに、米國では圖書館が普及してゐて國民は皆圖書館の圖書を利用することが出来るので、各自圖書を購入する場合は甚だしい。(米國の各都市に書店の數の甚だしいといふことは之を裏書するものである)。そして圖書館は有益な圖書でなければ決して購入しない。其結果有害無益な本は需要者が少いから自然世

278-98



に出づることは出来ない。是れ新刊書の少い所以である。

我が國の如く愚にもつかぬ本や思想悪化を目的としたのではないかと思はるゝやうな本が次から次へと相競ふて出版さるゝ國は外に餘り見受けない。そして我國の如く圖書に對する誇張的廣告が毎日の新聞紙を埋めてゐる處も亦決して之を他國に見出すことは出来ない。殊にいかがはしい本に限つて大に世人の注意を引くやうな巧妙な廣告法によりて大袈裟に紹介されつゝあるのを見る。そして我國では圖書館がまだ甚だ貧弱で且つ普及してゐないから、此等の廣告に瞞着せられた青年子女が先を争ふて愚にもつかぬ無價値の本や我が國體と相容れざる危険思想を演述せる圖書や乃至人間の劣情を挑發する悪書などを手にして一生を誤るに至ることも決して珍らしくないのである。今日我が國で最も憂慮さるゝ思想國難といふことも、悪書の濫讀にその端を發したものであることは多言を要せざる所である。

かく云へば悪書の害がそれ程恐るべきものであるならば寧ろ一般公衆には讀書せしめぬ方が良いではないかといふ議論があるかも知れぬ。併しそれは有害な食物があるから食事をすることを一切禁すべしと云ふと同一で、實行不可能な暴言である。要は圖書選擇の必要といふことを一般民衆が自覺すれば良いのである。併しながら國民各自が圖書の選擇を絶對的に誤らないといふことは云ふべくして行ふべからざる所である。夫故に北米合衆國に於ける如く圖書館を普及發達せしめ、國民各自をして私金を投じて圖書を購入するの必要なに至らしむることは悪書を驅逐する理想的方法である。そしてそれがやがて米國が共產主義の如き危険思想を殆ど一掃することが出来た所以であつたことを思ふ時、益々その必要を感じるのである吾人は一日も早く我國にもかゝる時代の到来せんことを切望する。

去りながら右の如きは俄に期待し得べきことではない。是れ本書に於て去昭和四年十二月から本年四月末に至るまでの間に

本館が有益無害の圖書として選定購入した圖書の目録を發表して一般各位の御参考に供する所以であつて、同時に圖書選擇のことに就いて青年諸君の爲めに一言するの必要を感じる所以である

一般に我が日本人は萬事につけて新しがり屋である。圖書の如きも新しいものばかりあせつて三年五年と経過したものは措いて省みざる傾向があるが、之は甚だ宜しくないことである。

歐米諸國では科學關係の圖書は成るべく新しいものを讀むの必要があるが、文學書類の如きは十年を経過して猶ほ人から忘れられないものでなければ讀む必要はなく、その他の圖書も少くとも出版後一年を経過して定評あるものにあらざれば讀む價値はないといふ輿論になつてゐる。そして『出版早々から餘り評判が高く忽ち幾十版幾百版を重ねるやうな圖書は目に唾して見るべき本であるから、出来べくば避けて讀まない方が良い。何となれば愚者に適當な書籍が大多數の讀者を得る可能性を持つて居るものであるから』と云ふやうな言葉は歐米の碩學達が弟子を戒めた言葉として吾人が時々之を耳にする所である。詩人ロバート・サウゼイは青年等を戒めて次の如く述べた。

青年讀者よ、諸子の心字は淵大にして理解心はまだ凝固せず、人生の苦悶といふこともまだ知らないから、その感情は甚だ純眞である。希くば諸子の教授が諸子に教ふるよりも勝れる余の教訓に耳を傾けよ。諸子にして諸子の手にせる圖書の善惡を知らんと欲せば瞑目一番、如何なる心を以て諸子が其の書を讀了したかを思ひ試みよ。讀書は諸子をして諸子が從來不條理と思つてゐた事件を不條理ならずとし、危険と教へられてゐたものを危険にあらざるものなるかの如き疑を起さしめた形跡はなかつた。之を讀んだが爲めに他人の部下としてその指揮を受くることを不満に思ひ、到底忍ぶ能はざるが如き鬱勃の感を覺えたことはなかつたか。將た又諸子をして神なく道德なきかの感を抱かしめ、自修克己の念を弛うするに至らしめた



ことはなかつたか。是を讀みたるが爲めに至大至善のものに對する讚美敬虔の念慮を薄くし、諸子の祖國を愛する精神、同胞を慕ふ情を薄くしたやうな感は起らなかつたか。惡魔の咀ひに似た耳語をもて諸子の驕慢心を煽動し、諸子の虚榮心を昂進せしめ諸子の利己心を逞ふせしめ、その他種々の好ましからざる性癖を使喚したやうなことはなかつたか。また清き純な感情を汚し、皓潔神の如き心を震慄せしめた所の醜陋な記事はなかつたか。神が人心の奥底に深く植付けて置いた是非善惡に關する差別の識念を混亂せしめたやうなことはなかつたか。若しかゝることがあつたとすれば諸子は此等の影響の一片又は全面に亘りて深く自ら省みる所があつたか。諸子は幸にして是等から離脱し、全身に浸潤せんとする怖るべき害毒を避けんと欲せば、假令それが如何なる表題の書であつても悉く之を火中に投ぜねばならぬ。よしそれが親しき友より贈られた貴き記念品であつても……

右のやうな心掛けで圖書を選択すれば大抵間違はあるまい。併しながら今日の如き時代に於ては中學卒業程度以上位の年齢に達し相當な批判力を養い得たものは危険思想と稱せらるゝ新思想にも若干は通じて居る必要があるかと思はるゝが、かゝる必要を認むる者は權威ある學者が穩健な批判を加へた本を讀むがよい。決して漫然と危険思想の本を讀ではならぬ。

併し何よりも必要なことは國民各自が安心立命の基礎となるべき確乎とした穩健な思想を養ふことに心掛けることである。之を養ふには何を措いても我が建國の精神を明にし、我が國民道德の眞精神を知ることが焦眉の急であるから、かゝることを記述せる權威ある圖書は何人も必ず愛讀して修養に資せねばならぬ。我が建國の精神を充分に理解すれば如何なる思想にぶちつかつても容易に之を批判することが出来て、それが爲めに思想を攪亂さるゝやうなことは決してない。夫故に我が國民道德を理論的に乃至感情的に十分に修得することが一番必要であるといふことは如何なる場合にも決して忘れてはならぬ。

去りながら有害無益なる圖書を除去することだけで我々の圖書選擇の目的は達せらるゝかと云ふに決してそうではない。吾人が只漫然として書籍を手にするやうであつたならば……たとえそれが良書であつたとしても……吾人はそれによりて目的のある讀書を爲す機會を消失することになる。殊に今日の如く書籍の洪水時代とも云ふべき時代に於て有益な書籍であればとて何の差別もなく手にとりて讀むは一事を學ばざるに異らざる結果を生ずる。又千百の書籍を僅に一二頁づ、繰り行くのみでは如何に有益な著書であつても何等の利益にもならないのである。

夫故に何人も深く嚴密に内心の判斷に訴へてどんな書を讀まば果して最も大なる利益を受くべきかを定めねばならぬ。換言すれば各自内心の傾向を熟考し、如何なる書を研究し、又は穿鑿するのが最も自己の趣味に適し、心的能力に合一するかといふことを考へ、充分なる解答を得たる後、その研究の眼目に向つて全方を集注すべきである。散漫なる讀書法、印ち單に氣慰みに讀書することも、過勞して注意力を消耗し去つた場合などには休養の一良法であるけれども、眞に讀書の趣味を解し、若くは學事に忠實ならむと欲する者にとりては、秩序正しく且つ確乎たる目的を以て著々として讀書する所に云ふべからざる妙味があるのである。

右の如き次第であるから圖書を選択するに當りては必しも數多の書籍に手を下すの必要はない。自分の研究せんと欲する學課の範圍内に於て、圖書館などの藏書を調査し、權威者の著書の内から最良と認むるものを選定して之を精讀するのが最も賢明な方法である。新聞雜誌などにある廣告に據りて漫然購入して之を濫讀することは時間と金錢の浪費たるに止まらず、一種の危険がそれに伴ふことを忘れてはならぬ。



長崎縣立長崎圖書館閱覽狀況

種別		月別		至昭和四年七月 至同年十二月		閱覽人員表		(取扱別)	
種別	月別	七	八	九	十	十一月	十二月	種別	月別
特別	別	二八三	一三四	七二六	五八	三九二	四七一	特別	別
普通	男女	五,九七二	六,三八六	九,四二七	三,一四六	七,六五六	七,四九八	普通	男女
携出	男女	三九三	五七五	七八九	三三七	五六三	六一九	携出	男女
新聞	男女	七,一三七	七,三二三	七,二四一	六,二一五	六,二五二	六,一八二	新聞	男女
兒童	男女	八,二一三	八,五二〇	一一,九〇八	四,一四二	一〇,五〇五	一〇,五四五	兒童	男女
計	男女	二二,二七〇	二二,三五一	三一,三三四	一三,七四四	二五,三九三	二四,八七六	計	男女
一日平均閱覽人員		七八八、七	八五三、〇	一一四〇、〇	九九三、四	九六〇、四	九六七、六	一日平均閱覽人員	

種別		月別		至昭和四年七月 至同年十二月		閱覽人員表		(職業別)	
種別	月別	七	八	九	十	十一月	十二月	種別	月別
學生		四,五九八	四,七四五	八,三六二	二,七五二	六,三九八	六,五九六	學生	
商工業者		六三五	七〇〇	六八九	五八五	七一四	六五四	商工業者	
官吏軍人		一,三六八	一,三六〇	一,三一五	七二八	七二八	八七二	官吏軍人	
銀行會社員		八八六	七八三	七六九	四九八	六〇四	五四〇	銀行會社員	
教育家宗敎家		六〇六	八〇五	六六〇	五七六	七八〇	六九五	教育家宗敎家	
記者醫師辯護士		二九四	三七四	三五一	三三三	三三五	二七八	記者醫師辯護士	
職工		八〇〇	八七三	八四四	七三八	八五九	七九七	職工	
兒童		九〇〇	一,七八六	一,三三〇	二三五	七三四	三一〇	兒童	
其他		一一,五七三	一四,一六三	一八,七四二	八,四六二	一五,七四〇	一五,三九一	其他	
計		二二,六六〇	二五,五八九	三三,〇六二	一四,八九七	二六,八九二	二六,一三三	計	
一日平均閱覽人員		七八八、七	八五三、〇	一一四〇、〇	九九三、四	九六〇、四	九六七、六	一日平均閱覽人員	



新著和漢圖書目錄

（自昭和四年十二月  
至昭和五年四月）

分類	自昭和四年七月 至同年十二月												
	閱覽圖書冊數表												
月別	七	八	九	十	十一月	十二月							
一 門	三、一八〇	三、六七三	三、九六三	三、〇五二	三、二一九	三、〇四六	二	一一、五六一	一一、七三八	一二、四九八	七、三〇八	一〇、五二七	九、四九四
二 門	五、九七〇	六、七八九	六、五七九	五、〇一六	四、九四七	四、四六二	三	一、五一七	一、七三七	一、七一六	一、二二六	一、二〇五	一、三四六
四 門	二、九二三	三、四八五	三、八九八	二、一八八	三、一三二	二、八六二	五	五四〇	四八一	七九〇	二五九	四〇八	五〇九
六 門	五三八	七三七	六五九	二四二	四三二	五三八	七	七九六	八三八	五九二	二七八	六六二	七一五
八 門	一五、一八〇	二二、〇五三	二二、八七八	九、二四三	一六、四九八	一五、一〇〇	九	一五、一八〇	二二、〇五三	二二、八七八	九、二四三	一六、四九八	一五、一〇〇
合 計	四二、二〇五	五三、五三一	五三、五七三	二八、七二二	四一、〇三〇	三八、〇七二	一	一四〇六、九	一七八四、四	一八四七、三	一九二四、一	一四六四、四	一四一〇、〇
一日平均閱覽冊數													



# 新著和漢圖書目錄

（自昭和四年十二月  
至昭和五年四月）

分類	自昭和四年七月 至同年十二月											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一 門	三、一八〇	三、六七三	三、九六三	三、〇五二	三、二一九	三、〇四六	一一、五六一	一一、七三八	一二、四九八	七、三〇八	一〇、五二七	九、四九四
二 門	五、九七〇	六、七八九	六、五七九	五、〇一六	四、九四七	四、四六二	一、五一七	一、七三七	一、七一六	五、〇一六	四、九四七	四、四六二
三 門	二、九二三	三、四八五	三、八九八	二、一八八	三、一三二	二、八六二	二、九二三	三、四八五	三、八九八	二、一八八	三、一三二	二、八六二
四 門	五、四〇	四八一	七九〇	二五九	四〇八	五〇九	五、四〇	四八一	七九〇	二五九	四〇八	五〇九
五 門	五、三八	七三七	六五九	二四二	四三二	五三八	五、三八	七三七	六五九	二四二	四三二	五三八
六 門	七九六	八三八	五九二	二七八	六六二	七一五	七九六	八三八	五九二	二七八	六六二	七一五
七 門	一五、一八〇	二二、〇五三	二二、八七八	九、二四三	一六、四九八	一五、一〇〇	一五、一八〇	二二、〇五三	二二、八七八	九、二四三	一六、四九八	一五、一〇〇
八 門	四二、二〇五	五三、五三一	五三、五七三	二八、七一二	四一、〇三〇	三八、〇七二	四二、二〇五	五三、五三一	五三、五七三	二八、七一二	四一、〇三〇	三八、〇七二
九 門	一四〇六、九	一七八四、四	一八四七、三	一九一四、一	一四六四、四	一四一〇、〇	一四〇六、九	一七八四、四	一八四七、三	一九一四、一	一四六四、四	一四一〇、〇
合計												
一日平均閱覽冊數												



目次

第一門	一〇〇	宗教、哲學、教育	一
第二門	二〇〇	文學、語學	六
第三門	三〇〇	歴史、傳記、地誌、紀行	二二
第四門	四〇〇	政治、法律、經濟及財政、社會統計	二五
第五門	五〇〇	數學、理學、醫學	三
第六門	六〇〇	工學、工藝、兵事	三三
第七門	七〇〇	産業、商業、交通及通信	三四
第八門	八〇〇	美術、家事、諸藝及遊技、武術	三五
第九門	九〇〇	事彙、叢書、隨筆、書目、雜書、新聞、雜誌	三七

第一門 宗教、哲學、教育

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
神話傳説大系					
第二卷 印度波斯篇	松元竹二	昭和四年五月	一一〇	二〇三	
第十一卷 西班牙安南	同	同	一一〇	二〇二	
心の平和	泉道雄	同	一一〇	二一九	
内外 日本神話の新研究	越川彌策	同	一一〇	二〇〇	
最新宗教研究思潮	宗教研究會	昭和三年六月	一一〇	二二二	
神道の批判	岸一	昭和四年七月	一一二	八五	
佛様の身元調べ	加納元	同	一一二	五三六	
神道講座 第一、第三冊	神道攷究會	同	一一一	八七	
昭和新纂國譯大藏經					
華嚴部 一	岩野眞雄	昭和四年五月	一一三	五四	
華嚴經 二	同	同	一一三	五四	
本縁部 四	同	同	一一三	五四	
律部 二	岩野眞雄	昭和四年七月	一一三	五四	
宗典部 五	同	同	一一三	五四	
經典部 十一	同	同	一一三	五四	
宗典部 二	同	同	一一三	五四	
國譯一切經	同	同	一一三	五四	
阿含部 八	岩野眞雄	昭和四年三月	一一三	五七	
同 四	同	同	一一三	五七	
同 九	同	同	一一三	五七	
毗曇部 一一、三	同	同	一一三	五七	
本録部 五	同	同	一一三	五七	
國譯禪學大成					
第一卷 碧巖錄上	宮裡順泰	昭和四年三月	一一三	五七	
第二卷 碧巖錄下、信	同	同	一一三	五七	
第三卷 永嘉集外二篇	同	同	一一三	五七	



目次

第一門	一〇〇	宗教、哲學、教育	一
第二門	二〇〇	文學、語學	六
第三門	三〇〇	歴史、傳記、地誌、紀行	三
第四門	四〇〇	政治、法律、經濟及財政、社會統計	三
第五門	五〇〇	數學、理學、醫學	三
第六門	六〇〇	工學、工業、兵事	三
第七門	七〇〇	産業、商業、交通及通信	三
第八門	八〇〇	美術、家事、諸藝及遊技、武術	三
第九門	九〇〇	事業、叢書、隨筆、書目、雜書、新聞、雜誌	三

第一門 宗教、哲學、教育

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
神話傳説大系					
第二卷 印度波斯篇	松元竹二	昭和四年五月	一一〇	一〇三	
第十一卷 西班牙安南篇	同	同	一一〇	一〇二	
心の平和	泉道雄	同	一一〇	一〇一	
内外日本神話の新研究	越川彌榮	同	一一〇	一〇〇	
最新宗教研究思潮	宗教研究会	昭和三年六月	一一〇	九九	
神道の批判	岸一	昭和四年七月	一一一	八五	
佛様の身元調べ	加納元	同	一一三	五三六	
神道講座 第一、第三冊	神道研究会	同	一一二	八七	
昭和最新國譯大藏經					
華嚴部	岩野眞雄	昭和四年五月	一一三	五四	
華嚴經	同	同	一一三	五四	
本縁部	同	同	一一三	五四	
律部	岩野眞雄	昭和四年七月	一一三	五四	
宗典部	同	同	一一三	五四	
經典部	同	同	一一三	五四	
宗典部	同	同	一一三	五四	
國譯一切經	同	同	一一三	五四	
阿含部	岩野眞雄	昭和四年三月	一一三	五七	
同	同	同	一一三	五七	
同	同	同	一一三	五七	
毗曇部	同	同	一一三	五七	
本録部	同	同	一一三	五七	
國譯禪學大成					
第一卷 碧巖錄上	宮裡祖泰	昭和四年三月	一一三	五七	
第二卷 碧巖錄下、信心銘義解	同	同	一一三	五七	
第三卷 永嘉集外二篇	同	同	一一三	五七	



書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
第五卷臨濟錄外二篇	宮裡祖泰	昭和四年五月	一一三	五三七	
第六卷曹山語錄外二篇	同	同	一一三	五三七	
第七卷雲臥紀標外二篇	同	同	一一三	五三七	
第八卷宏智頌外二篇	同	同	一一三	五三七	
第九卷百丈錄外三篇	同	同	一一三	五三七	
第十卷宗門十規論外一篇	同	同	一一三	五三七	
第十一卷宗門武庫入衆日用清記	同	同	一一三	五三七	
大國聖日蓮上人	田中知學	昭和四年三月	一一三	五三六	
磐若波羅密多心經講話	大谷光瑞	昭和三年十一月	一一三	五三九	
第一義諦	滿州佛教青年會	昭和二年八月	一一三	五四〇	
他力眞宗	大谷光瑞	大正十二年五月	一一三	五四二	
佛說阿彌陀經講義	同	昭和三年十一月	一一三	五四三	
大藏經解說	梅上尊融	大正十年十二月	一一三	五四三	
大義無量壽經義疏	大谷光瑞	大正三年二月	一一三	五四五	
見眞大師	大谷光瑞	大正十二年二月	一一三	五四六	
佛教原理	同	昭和三年五月	一一三	五四七	
初代佛教	ラノース・ダビ ット	昭和四年六月	一一三	五四九	
無量光如來安樂壯嚴經 (梵語原本國譯)	大谷光瑞	同	一一三	五四八	
日本靈異記	板橋倫行	同	一一三	五五〇	
大國聖日蓮上人	田中智學	同	一一三	五五一	
法華經要義	本多日生	同	一一三	五五二	
釋尊及其弟子達 下卷	山邊智學	昭和四年七月	一一三	五五四	
釋宗演全集	同	同	一一三	五五五	
第一卷禪學大衆講話	松田竹の島	昭和五年五月	一一三	五五五	
第二卷觀音經講話	同	同	一一三	五五五	
第七卷金剛經講話外二篇	同	同	一一三	五五五	
第九卷支那巡錫記外一篇	同	同	一一三	五五五	
繪入日蓮大聖人傳	德院目辰	昭和四年七月	一一三	五五六	

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
淨土の教義と其教團 下巻	石井教道	同	一一三	五五七	
支那佛教史講話	境野黃津	昭和四年六月	一一三	五六〇	
新譯佛教聖典	木津無庵	同	一一三	五六二	
日蓮主義精要	本多日生	同	一一三	五六四	
日本カトリック教史	三木露風	同	一一三	五六一	
切支丹秘史	藤井伯氏	同	一一三	五六一	
神の救ひ	明石順三	昭和二年十月	一一三	五三三	
神の立琴	シエール・ルッ ゾード	大正十年	一一三	一三四	
密教學	神林隆淨	昭和四年五月	一一四	一六	
金光教々典	金光家邦	同	一一四	一七	
大神眞教典	前田直平	同	一一四	一八	
初代會長松村教正六十 年史料天理教高安大教 會史	芦田義宜	昭和二年四月	一一四	一九	
印度支那密教史	古祥眞	昭和四年五月	一一四	二〇	
哲學講座 自第十一册 至第十五册	松元竹二	自昭和四年四月 至同 年八月	一一三	二九	
大思想家	大橋	昭和四年二月	一一〇	三〇三	
大安住の地を求めて	堂屋敷竹次郎	昭和三年十二月	一一〇	三〇四	
教師と母の爲の啓學	中島義一	昭和四年二月	一一〇	三〇五	
靈學講話 第一編	宇佐美景堂	同	一一〇	三〇六	
思想善導論	大日本學術協會	昭和三年十二月	一一〇	三〇七	
社會思想と倫理學說	高橋幸太	昭和四年五月	一一〇	三〇九	
日本思想史上代國民の 精神生活	清原貞雄	同	一一〇	三二〇	
文檢參考 問題中心 國民道德要領	浦木金太郎	昭和三年十二月	一一三	一一一	
俗倫理學講話	野澤元匡	昭和四年四月	一一三	一一二	
我が國體と國民精神	鈴木友吉	同	一一三	一一三	
文檢參考 思想史 日本倫理史要	松田友吉	昭和四年十一月	一一三	一一四	
國民思想の發達	文部省	同	一一三	一一五	
瓊水論叢 第七輯 青年問題	鈴木千代吉	昭和五年二月	一一三	一八五	
修養全集	同	同	一一三	一八五	



書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
第六卷 滑稽諧謔教訓集	野間清治	昭和四年四月	一三四	三四九
第七卷 經典名著感話集	同	同	一三四	三四九
第八卷 古今逸話特選集	同	同	一三四	三四九
第九卷 訓話、說教、演說集	同	同	一三四	三四九
第十卷 立志奮闘物語	同	同	一三四	三四九
第十一卷 處世常識寶典	同	同	一三四	三四九
第十二卷 日本の詩	同	同	一三四	三四九
名家洗心道場	佐藤 忍	昭和四年三月	一三四	三五二
御大禮 念現代小國民美談	小學生 講會	昭和三年十一月	一三四	三五二
自警錄	新渡邊稻造	昭和四年五月	一三四	三五三
古今偉人英雄逸話集	大河内翠山	同	一三四	三五四
古今偉人英雄美談集	同	同	一三四	三五五

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
昭和國民讀本	金尾雄次	同	一三四	三五六
古今偉人英雄血涙集	大河内翠山	同	一三四	三五七
讀んで面白く修養になる史上美談逸話集	太田 寛	昭和四年九月	一三四	三五八
風俗習慣と神ながらの實習	克彦	同	一三四	三五九
少年明治天皇御傳	松本浩記	同	一三四	三六〇
儒教の獨逸政治思想に及ぼせる影響	五來欣造	同	一三四	三六一
重寶 永代大雜書大成	名倉龜太郎	昭和三年九月	一三四	三六二
運命姓名の神秘	熊崎健翁	昭和四年六月	一三四	三六三
名稱教育精神 附慰安の熱淚	附楠木博俊	同	一三四	三六四
教育思潮研究 第三卷	教育思潮研究會	昭和四年四月	一三四	三六五
樟蔭女子専門學校入學案内及學則	樟蔭女子専門學校	同	一三四	三六六
全國育英事業概況	文部省	同	一三四	三六七

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
青少年の映畫興業觀覽	文部省	昭和二年十月	一三四	四四九
教育倫理講座 第十四卷	田村 初	昭和三年十一月	一三四	四五七
子供研究講座 第三、七、八、九、十卷	日本兩親再教育協會	昭和五年自五月至五月	一三四	四六一
最近二十年間 文檢各科試驗問題集	中等教育會	昭和三年十二月	一三四	四六九
偉人と其中心生命	笠井義夫	昭和四年三月	一三四	四七二
日本庶民(近世に於ける教育史)の傾向の發達	石川 謙	同	一三四	四七三
成田山事業年報 昭和四年	淺井照次	同	一三四	四七四
参 考 東洋教育史	三浦東作	同	一三四	四七五
編 唐宋八家文詳解	笠松彬雄	同	一三四	四七六
實際教育主要問題の解決	眞田幸憲	同	一三四	四七七
宗教的自覺と教育	福島政雄	昭和四年九月	一三四	四七八
九州帝國大學要覽	九州帝國大學	昭和五年三月	一三四	一八五

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
實業補習學校に關する諸調査	文部省 社會教育局	昭和四年七月	一三四	四四九
小學校の球技指導	小野寺永藏	昭和三年十一月	一三四	四三〇
修身教授大資料	清原貞雄	昭和四年九月	一三四	四三三
昭和四年高等學校卒業者の大學入學に關する調査	文部省 門學務局	同	一三四	四三四
精神衛生	農林省 產講習所	同	一三四	四三五
長崎高等商業學校一覽	同	同	一三四	二
京都帝國大學一覽	帝都帝國大學	同	一三四	五九
神宮皇學館一覽	神宮皇學館	同	一三四	一〇九
東京第六高等學校一覽	同	同	一三四	一三四
長崎醫科大學一覽	同	同	一三四	一四〇
松本高等自昭和四年學校一覽	同	同	一三四	一五〇
第五高等學校一覽	同	同	一三四	一六〇



書名 著者名 発行年月 冊数 類目番號

全國私立中學校高等女學校 實業學校 經費に關する調査	文部省 普通學務局	昭和三年四月廿一日現在	一一三	一八七
長崎縣立長崎中學校規程一覽	同上	昭和四年九月	一一三	二〇五
神宮皇學館要覽	神宮皇學館	同 年七月	一一三	二〇六
帝國學士院一覽	同上	同 年八月	一一三	二〇七
帝國學士院名簿	同上	同 年四月	一一三	二〇八
宮崎高等農林學校一覽	同上	同 年三月	一一三	二〇九
東京文理科大學、東京師範學校第一臨時教員養成所一覽	東京文理科大學	昭和五年二月	一一三	二一四
東京工業大學一覽	同上	同 年	一一三	二一五
昭和京都市立醫科大學五年一覽	同上	同 年一月	一一三	二一六
思想惡化防止策	北村 茂	同 年三月	一一三	二一五
兒童文庫の理論並實際	山形縣立圖書館	同 年二月	一一三	二〇六
青年訓練に關する調査	文部省社會教育局	同 年十二月	一一三	二〇七

第二門 文學、語學

書名 著者名 発行年月 冊数 類目番號

漱石全集	夏目漱石	昭和四年一月	一一〇	一九
第五卷三四郎	同上	同 年七月	一一〇	一九
第六卷それから、門	同上	同 年六月	一一〇	一九
第十二卷文學評論	同上	同 年八月	一一〇	一九
第二十卷別冊	同上	同 年九月	一一〇	一九
第十卷明暗	同上	同 年十月	一一〇	一九
第十六卷日記及斷片	同上	同 年	一一〇	一九
世界文學全集	横山有策	昭和四年五月	一一〇	一四三
第三卷沙翁傑作集	同上	同 年六月	一一〇	一四三
第十九卷ナ、夢	同上	同 年七月	一一〇	一四三
第三十九卷近代短篇小説集	同上	同 年八月	一一〇	一四三
第一卷神曲	同上	同 年	一一〇	一四三
第八卷懺悔錄	同上	同 年	一一〇	一四三

書名 著者名 発行年月 冊数 類目番號

第七卷アイヴンホー	ワトルタ・スコ	昭和四年九月	一一〇	一四三
第三十五卷近代戯曲	日高 只一	同 年十一月	一一〇	一四三
岩波文庫	佐藤 義亮	同 年	一一〇	一四三
蕪村七郎集	伊藤 松宇	昭和三年一月	一一〇	一四四
若いエルテルの悩み	茅野 蕭々	同 年	一一〇	一四四
訓讀日本書紀	黒板 勝美	同 年	一一〇	一四四
墨汁一滴	正岡 子規	昭和二年十二月	一一〇	一四四
人間萬歳	武者小路實篤	昭和三年一月	一一〇	一四四
陸奥直次郎	長 興 善	昭和二年十二月	一一〇	一四四
人間嫌ひ	モリエール	昭和三年一月	一一〇	一四四
ケーベル博士隨筆集	久部 保成	同 年四月	一一〇	一四四
生まれざりしな	正宗 白鳥	同 年	一一〇	一四四
現代のヒーロー	レールモン	昭和三年三月	一一〇	一四四
その妹	武者小路實篤	同 年四月	一一〇	一四四

書名 著者名 発行年月 冊数 類目番號

ボリウクト	コルネイル	昭和二年八月	一一〇	一四四
エトルリヤ	木村 太郎	同 年	一一〇	一四四
辨天小僧、九鳥の平右衛門	杉 健夫	同 年七月	一一〇	一四四
結婚の幸福	阿 彌 夫	同 年八月	一一〇	一四四
譯註杜詩第三卷	米川 正夫	同 年	一一〇	一四四
同 第四卷	漆山 又四郎	昭和四年五月	一一〇	一四四
同 第五卷	同 年	同 年	一一〇	一四四
平家物語 下巻	山田 孝雄	同 年六月	一一〇	一四四
全譯グリム童話集 第五冊	金田 鬼一	同 年	一一〇	一四四
新曲浦島、新曲赫映姫	坪内 逍遙	同 年五月	一一〇	一四四
櫻の實の熟する時	島崎 藤村	同 年六月	一一〇	一四四
竹取物語	島 津 久 基	同 年七月	一一〇	一四四
新古今和歌集	佐々木 信綱	同 年六月	一一〇	一四四
青い鳥	メテルリンク	同 年	一一〇	一四四
世間胸算用	若月 紫蘭	同 年	一一〇	一四四
和原 萬吉	同 年	同 年	一一〇	一四四



書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
475 476 グリム童話集	金田 鬼一	昭和四年八月	一一〇	一四四	一四四
524 祖 妣	ダリ・ベルツェル 岡本 修助	同 年六月	一一〇	一四四	一四四
530 正法眼藏隨聞記	和辻 哲郎	同	一一〇	一四四	一四四
537 坊ちやん	夏目 漱石	同 年七月	一一〇	一四四	一四四
538 草 枕	同	同	一一〇	一四四	一四四
544 545 胡蝶物語	曲亭 馬琴 和田 鳳吉	同	一一〇	一四四	一四四
552 554 逍遙遺稿原本	笹川 外風	同 年九月	一一〇	一四四	一四四
新興文學全集					
第二十二卷 露西亞篇	下中 彌三郎	昭和四年三月	一一〇	一四七	一四七
第十三卷 米國篇	同	昭和三年十一月	一一〇	一四七	一四七
第十四卷 同	同	昭和四年十月	一一〇	一四七	一四七
第十九卷 獨逸篇	同	同 年八月	一一〇	一四七	一四七
第五卷 日本篇	同	同 年十一月	一一〇	一四七	一四七

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
第三卷 自然と人生、 來山曇青蘆集	徳富 健次郎	昭和四年三月	一一〇	一五五	一五五
第十六卷 富士 第一卷	同	同 年三月	一一〇	一五五	一五五
第七卷 黒潮十年順禮 紀行	同	同 年十二月	一一〇	一五五	一五五
第十一卷 太平洋を中 心に	同	同 年八月	一一〇	一五五	一五五
第十三卷 日本から日 本へ	同	同	一一〇	一五五	一五五
第十九卷 偶感偶想	同	同 年九月	一一〇	一五五	一五五
第十五卷 竹崎順子	同	同 年十一月	一一〇	一五五	一五五
第五卷 短篇小説集	同	同 年十二月	一一〇	一五五	一五五
第十七卷 富士 第二卷	同	同 年十月	一一〇	一五五	一五五
石川啄木全集	石川 啄木	昭和四年三月	一一〇	一五八	一五八
第二卷 小説小品散文 詩集	同	同	一一〇	一五八	一五八
第五卷 書簡附年譜	同	同 年二月	一一〇	一五八	一五八
菊池寛全集	菊池 寛	同	一一〇	一五八	一五八

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
第二卷 短篇小説集時 代篇	菊池 寛	昭和四年四月	一一〇	一六〇	一六〇
第三卷 戯曲集現代篇	同	同 年六月	一一〇	一六〇	一六〇
第四卷 戯曲集時代篇	同	同 年八月	一一〇	一六〇	一六〇
第三卷 戯曲集現代篇	同	同 年六月	一一〇	一六〇	一六〇
第五卷 眞珠夫人、慈 悲心鳥	同	同 年二月	一一〇	一六〇	一六〇
第一卷 短篇小説集現 代篇	同	同 年九月	一一〇	一六〇	一六〇
第八卷 新女性鑑、明 眸	同	同 年十一月	一一〇	一六〇	一六〇
第六卷 新珠、花草	同	同 年五月	一一〇	一六〇	一六〇
第十卷 東京行進曲、 結婚二重奏	同	同 年十月	一一〇	一六〇	一六〇
厨川白村全集					
第五卷 文學論 下巻	厨川 白村	昭和四年五月	一一〇	一六一	一六一
第七卷 文學論 上巻	同	同 年六月	一一〇	一六一	一六一
第八卷 文學評論及印 象記	同	同 年七月	一一〇	一六一	一六一
第六卷 英詩新釋	同	同 年八月	一一〇	一六一	一六一

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
啄木を繞る人々	吉田 孤牛	昭和四年五月	一一〇	一六一	一六一
東西文藝評傳	高安 月効	同 年六月	一一〇	一六一	一六一
小酒井不木全集	小酒井 不木	昭和四年六月	一一〇	一六三	一六三
第一卷 殺人論及毒と 毒殺	同	同 年五月	一一〇	一六四	一六四
第三卷 探偵小説短篇 集	同	同 年七月	一一〇	一六四	一六四
第五卷 犯罪術及學者 氣質	同	同 年八月	一一〇	一六四	一六四
第二卷 犯罪文學研究 及西洋探偵譚	同	同 年九月	一一〇	一六四	一六四
第四卷 探偵小説長篇 集	同	同 年十月	一一〇	一六四	一六四
第七卷 醫女怪談	同	同 年十一月	一一〇	一六四	一六四
第六卷 生命神祕論及 不木軒隨筆	同	同	一一〇	一六四	一六四
令女文學全集					
第一卷 春のまぼろし 外十篇	加藤 武雄	昭和四年七月	一一〇	一六四	一六四
第二卷 荆の門外四篇	福田 正夫	同 年八月	一一〇	一六四	一六四
第六卷 小鳥の家外十 三篇	北川 千代	同 年九月	一一〇	一六五	一六五
第八卷 秘密の花園	岩下 小葉	同 年十月	一一〇	一六五	一六五



書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第十卷 處女の道外一	横山美智子	昭和四年十二月	一三〇	一六五
第十二卷 令女詩集	西條八十	同	一三〇	一六五
小泉八雲全集	田部隆次	昭和四年九月	一二〇	一六七
第三卷 知らぬ日本の面影	同	同	一二〇	一六七
第六卷 靈の日本、影	同	同	一二〇	一六七
第七卷 骨董、怪談、天	同	同	一二〇	一六七
第二卷 佛領印度の二	同	同	一二〇	一六七
第五卷 日本お伽囃外	同	同	一二〇	一六七
童話學講話	蘆谷重常	昭和四年五月	一二〇	一六八
牧水全集	若山牧水	自九月至十二月	三三〇	一六九
子規全集	正岡霽規	同	二二〇	一七〇
もつとも 東西遊記の解釋	柴田隆	同	一一〇	一七二
もつとも 花月草紙の解釋	同	同	一一〇	一七二
もつとも 益軒十訓の解釋	同	同	一一〇	一七三

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
新譯日本井原西鶴集	川俣馨一	同	年九月	一三一 一七
續國文學講座	武藤欽	自昭和四年一月至同	年十月	五二一 二九四
新譯芭蕉紀行全集	三村鴻堂	昭和三年十月	一三一	二七六
古事記讀本	井上積文	同	一三一	三一九
芭蕉奥の細道新解	武田鸞塘	同	年十一月	一三一 三三〇
受驗學習參考徒然草詳解	松本龍之助	昭和四年三月	一三一	三三一
江戸文學史	永井一孝	同	年四月	一三一 三三二
名著趣味の泉	高木斐川	大正十年一月	一三一	三三三
國學全史上卷	野村八良	昭和三年十一月	一三一	三三四
玉かつま詳解	澤田總清	同	年十二月	一三一 三三五
羅生門の鬼	島津久基	昭和四年六月	一三一	三三六
註日本文學類從	武田祐吉	昭和四年一月	一三一	三三七
近代歌謠集	藤田徳太郎	同	年六月	一三一 三三七
新選列傳休小説史	水谷不創	同	年七月	一三一 三三八

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
堤中納言物語	吉澤義則	昭和四年六月	一一一	三三九
模範國文學新解釋	堤達也	同	年一月	一一一 三三〇
源氏物語諸抄大成	永井一孝	同	年十二月	一一一 三三一
前田本まくら草紙	育徳財團	昭和二年十一月	一一一	三三三
參考徒然草詳解	松本龍之助	昭和四年四月	一一一	三三四
參考平家國語詳解	同	同	年十二月	一一一 三三五
參考枕之草紙詳解	同	昭和五年一月	一一一	三三六
參考増鏡詳解	同	同	一一一	三三八
參考大鏡詳解	同	昭和四年十二月	一一一	三三九
萬傾文集	戸水	汪昭和三年十二月	一一一	三四〇
市立名古屋圖書館第八回講演集	名古屋圖書館	昭和五年四月	一一一	三四一
繪卷枕草紙	尾上八郎	昭和四年九月	一一一	三四二
帝國文庫	同	同	一一一	三四二
第十六卷 大岡政談	博文館	昭和四年四月	一一一	一〇一
第七卷 馬琴傑作集	同	同	年五月	一一一 一〇二

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第二十五卷 脚本傑作	博文館	昭和四年六月	一一一	一〇一
第八卷 其積自笑傑作	同	同	年八月	一一一 一〇一
第十卷 紀海音、並木宗輔淨瑠璃集	黒木勘藏	同	年十一月	一一一 一〇一
第十七卷 仇討小説集	三田村鳶魚	同	年九月	一一一 一〇一
第十八卷 日本古典全集	中村孝也	同	年十一月	一一一 一〇一
易林本節用集	正宗敦夫	大正十五年二月	一一一	二六八
吾妻鏡	正宗敦夫	大正十五年二月	一一一	二六八
平家物語	正宗敦夫	大正十五年二月	一一一	二六八
西鶴全集	同	同	年十一月	一一一 二六八
榮華物語下卷附赤染衛門歌集	同	同	年十月	一一一 二六八
曾我物語	同	同	年十二月	一一一 四六八
大隈言道全集	同	同	年十二月	一一一 四六八
古風土記	正宗敦夫	昭和三年四月	一一一	二六八
教訓抄	同	同	年五月	一一一 二六八



書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
延喜式	正宗敦夫	昭和四年四月	一	二二一
源氏物語	正宗敦夫	昭和四年四月	一	二二二
保元物語、平治物語	同	昭和三年十二月	一	二二六
承久記	同	昭和三年十二月	一	二二七
萬葉集略解	正宗敦夫	昭和二年四月	一	二二八
吾妻鏡	同	大正十五年五月	一	二二九
新譯山上憶良歌集	尾上篤二郎	昭和四年六月	一	二三三
アラ、ギ年刊歌集	昭齋藤茂吉	同	一	二三四
大日本歌書綜覽	福井久	昭和三年八月	一	二二七
短歌寫生の說	齋藤茂吉	昭和四年五月	一	二三二
浦のみるめ	山邊定子	同	一	二三三
馬糞と星	田中清一	同	一	二三四
萬葉集物語	尾山篤二郎	同	一	二三六
和歌秘傳詳解	飯田秀治	同	一	三三七
現代短歌全集	與謝野寛、與謝野昌子	昭和四年十月	一	三三八

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
第九卷北原白秋、吉井勇集	北原白秋外一名	昭和四年九月	一	三三八
古今和歌集	育徳財團	昭和三年十一月	二	三四〇
分類俳句全集	松本瀧之助	昭和五年四月	一	三四一
俳句講座	伊藤月草	昭和四年五月	一	一七二
俳句講座	同	同	一	一七三
俳句講座	同	同	一	一七四
俳句講座	同	同	一	一七五
俳句講座	同	同	一	一七六
加賀の千代女の生涯	吉松祐一	同	一	一七四
ぬかご俳句集	水野山人	同	一	一七六

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
現代詩人全集	石川啄木外五名	昭和四年十月	一	三三九
雄辯學講座	雄辯學會	昭和三年三月	一	二二四
臺北高等商業學校開港十周年記念論文集	遠藤壽	昭和五年二月	一	二二四
武藤元信論文集	武藤元信	昭和四年九月	一	二二四
創作探偵小説選集	探偵趣味の會	同	一	二二三
江戸三國志	吉川英治	同	一	二二九
右門捕物帳	佐々木味津三	同	一	二二二
ごろつき船	大佛次郎	同	一	二二五
影繪双紙	尾山篤二郎	同	一	二三四
蜂須賀小六	村上浪六	同	一	二三五
最後の舞踊	鶴見盛輔	同	一	二三六
野の花と白髮鬼	黒岩周六	同	一	三三七
太閤記	矢田挿雲	同	一	三三三

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
現代日本文學全集	吉田紘二郎	昭和四年二月	一	二二五
第四十七卷吉田紘二郎、藤森成吉集	外二名	同	一	二二九
第三十七卷	島崎藤村	同	一	二二九
第三十六卷	戸川明三	同	一	二二九
第三十八卷	山本三生	同	一	二二九
第五十卷新興文學集	前田河廣一郎	同	一	二二九
第三十五卷	中村吉藏	同	一	二二九
第二十卷	阿部次郎	同	一	二二九
第四十六卷	山本有三	同	一	二二九
現代大衆文學全集	山本有三	同	一	二二九
第二十八卷	行友季風	同	一	二二九
第十七卷	本山萩丹	同	一	二二九
第五卷	前田曙山	同	一	二二九



書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第十六卷 下村悦夫集	下村悦夫	昭和四年六月	一	二二五二四九
第十八卷 村上浪六集	村上浪六	同	一	二二五二四五
第二十五卷 伊原青々集	伊原青々	同	一	二二五二四五
第二十七卷 高桑義生集	高桑義生	同	一	二二五二四五
第三十六卷 矢田挿雲集	矢田挿雲	同	一	二二五二四五
第十九卷 白井喬二集	白井喬二	同	一	二二五二四五
赤穂浪士 下巻	大佛次郎	同	一	二二五二四五
繪本甲越軍記	松山思水	同	一	二二五二八二
現代長篇小説全集	鶴見雄輔	同	二	二二五二〇〇
第二十一卷 賀川豊彦	賀川豊彦	同	一	二二五二六二
第十八卷 吉屋信子篇	吉屋信子	同	一	二二五二六二
第十五卷 吉井勇篇	吉井勇	同	一	二二五二六二
第十七卷 田山花袋篇	田山花袋	同	一	二二五二六二
第二十卷 佐藤春雄、宇野浩二篇	佐藤春雄、宇野浩二	同	一	二二五二六二

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第十九卷 小杉天外篇	小杉天外	同	一	二二五二六二
現代ユーモア全集	長谷川如是閑	同	一	二二五二六二
第四卷 奇妙な精神病者	戸川秋骨	同	一	二二五二六二
第三卷 樂天地獄	高田義一郎	同	一	二二五二六二
第十卷 らく我記	正木不如丘	同	一	二二五二六二
第八卷 ゆがめた顔	田中比佐良	同	一	二二五二六二
第十三卷 涙の値打	細木原青起	同	一	二二五二六二
第十五卷 晴れ後曇り	藤生	同	一	二二五二六二
第十七卷 嫁を探しに	大久保北秀	同	一	二二五二六二
總之助捕物實話	秦賢助	同	一	二二五二〇七
高濱常盤	佐木味津三	同	一	二二五二〇八
謎の人形師	長谷川時雨	同	一	二二五二〇九
處女時代				
講談全集				

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第八卷 夕立勘五郎	野田清治	同	一	二二五二七九
第十卷 關取千兩幟	同	同	一	二二五二七九
第九卷 乃木將軍田宮坊太郎朝顔日記	同	同	一	二二五二七九
第十一卷 塚原卜傳新門辰五郎	同	同	一	二二五二七九
第十二卷 千葉周作相馬大作	同	同	一	二二五二七九
世界大衆文學全集				
第十三卷 アングル・メトロポリス	ハリエツト・ピイ	同	一	二二五二九二
第十五卷 ス殿方は金髪がお好き	テア・フォン・ハ	同	一	二二五二九二
第十六卷 カチユウシ	近松秋江	同	一	二二五二九二
第十七卷 九十三年の洞窟の女	ガイクトル・ユ	同	一	二二五二九二
第二十八卷 王の寶窟	早坂二郎	同	一	二二五二九二

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第三十一卷 三等水兵	ダブレル・ダリー	同	一	二二五二九二
第二十七卷 スカラム	ラファエルサバ	同	一	二二五二九二
第二十六卷 探偵・河畔の悲劇	田中早苗	同	一	二二五二九二
第二十二卷 セダン城の虜	アンリ・ホップ	同	一	二二五二九二
第二十一卷 シヤアロウムス	コナンド・イル	同	一	二二五二九二
第二十卷 ステラ・ボエム	岩雄	同	一	二二五二九二
第三十卷 マン集	江戸川亂歩	同	一	二二五二九二
第七卷 放蕩息子	ホーレ・ケイン	同	一	二二五二九二
第八卷 ド・カライ	ジョセフ・スミ	同	一	二二五二九二
第二十三卷 紅繁妻	松木	同	一	二二五二九二
第五卷 シスコオ	久米正雄	同	一	二二五二九二



書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
第十二卷 巴里の秘密	武林無想庵	昭和四年七月	一二五	一九二	一二五
第十九卷 キング・四枚のクラブ	小酒井不木	同	一二五	一九二	一二五
第三十四卷 世界滑稽名作集	東健	同	一二五	一九二	一二五
第三十五卷 世界怪談名作集	岡本綺堂	同	一二五	一九二	一二五
第二十九卷 海の義賊スマルク	高橋國太郎	同	一二五	一九二	一二五
第三十二卷 幻島ローマンズ	野口米次郎	同	一二五	一九二	一二五
第三十六卷 世界探偵事實物語集	松本泰	同	一二五	一九二	一二五
第十四卷 英米新進作家集	牧逸馬	同	一二五	一九二	一二五
第三十三卷 ロモラ	賀川豊彦	同	一二五	一九二	一二五
第五卷 コリンズ集	同	同	一二五	一九二	一二五
第十九卷 ビーストン集	同	同	一二五	一九二	一二五
フタテツイ・イン・スカレット	桃井津根雄	昭和二年六月	一二五	一九三	一二五

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
アルセエヌ・リュバン	モリス・ルブラン	昭和四年五月	一二五	一九七	一二五
綾衣繪卷	村松梢風	同	一二五	一九六	一二五
江戸三國志	吉川英治	昭和三年十一月	一二五	一九一	一二五
空中紳士	小酒井光次	昭和四年三月	一二五	一九三	一二五
黒髪夜叉	前後編 前田 環山	同	一二五	一九四	一二五
劍豪近藤勇	續編 中内 蝶二	同	一二五	一九五	一二五
世界探偵小説全集	同	同	一二五	一九五	一二五
第七卷 ドイル集	新青年編輯部	昭和四年六月	一二五	二〇一	一二五
第十三卷 ドウ・ゼ集	小酒井不木	同	一二五	二〇一	一二五
第十四卷 ルブラン集	保羅 龍緒	同	一二五	二〇一	一二五
第十五卷 フレツチャ集	新青年編輯部	同	一二五	二〇一	一二五
第二十二卷 マツカリ集	坂本 義雄	同	一二五	二〇一	一二五
第二十三卷 亂歩集	氣川 亂歩	同	一二五	二〇一	一二五
第三卷 ガボオ集	田中 早苗	同	一二五	二〇一	一二五
第四卷 ボアゴベイ集	新青年編輯部	同	一二五	二〇一	一二五

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
第十卷 ル・ウ集	新青年編輯部	昭和四年八月	一二五	二〇一	一二五
第十一卷 クリストイ集	同	同	一二五	二〇一	一二五
第十三卷 ドウ・ゼ集	同	同	一二五	二〇一	一二五
第二十四卷 ブンダン集	同	同	一二五	二〇一	一二五
日本探偵小説全集	同	同	一二五	二〇一	一二五
第三卷 佐藤春夫、芥川龍之助集	佐藤春夫外一名	同	一二五	二〇四	一二五
第三卷 江戸川亂歩集	江戸川亂歩	昭和四年七月	一二五	二〇四	一二五
第五卷 谷崎潤一郎集	谷崎潤一郎	同	一二五	二〇四	一二五
第六卷 岡本綺堂集	岡本綺堂	同	一二五	二〇四	一二五
第八卷 保羅龍緒集	保羅龍緒	同	一二五	二〇四	一二五
第九卷 大下宇陀兒集	大下宇陀兒	同	一二五	二〇四	一二五
第十四卷 平林初之輔、橋本五郎集	平林初之輔外一名	同	一二五	二〇四	一二五
第十卷 横溝正史集	横溝正史	同	一二五	二〇四	一二五
第十一卷 夢野久作集	夢野久作	同	一二五	二〇四	一二五
第十三卷 水谷準集	水谷準	同	一二五	二〇四	一二五

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
第十六卷 濱尾四郎、久山季子集	濱尾四郎外一名	昭和四年十二月	一二五	二〇四	一二五
第七卷 長谷川伸、山本太郎集	長谷川伸外一名	同	一二五	二〇四	一二五
第十八卷 國枝史郎渡邊温集	國枝史郎外一名	同	一二五	二〇四	一二五
少年冒險小説全集	同	同	一二五	二〇四	一二五
第九卷 銀蛇の窟	高垣 暉	昭和四年九月	一二五	二〇五	一二五
あゝ玉杯に花うけて	佐藤 紅緑	同	一二五	二〇五	一二五
碧瑠璃園全集	同	同	一二五	二〇五	一二五
第十卷 錢屋五兵衛	碧瑠璃園	同	一二五	二〇五	一二五
日本戯曲全集	同	同	一二五	二〇五	一二五
第三十一卷 滑稽狂言集	渥見清太郎	昭和四年二月	一二六	一九七	一二六
第二十卷 化政度江戸仇討集	同	同	一二六	一九七	一二六
第十四卷 曾我狂言合併集	同	同	一二六	一九七	一二六
第十五卷 赤穂義士劇集	同	同	一二六	一九七	一二六



書名 著者名 發行年月 冊數 類目番號

第十六卷	伊達騷動合	渥見清太郎	昭和四年五月	一二六	一九七
第三十二卷	河竹新七及竹紫其水集	竹紫其水	同	一二六	一九七
第三十三卷	現代篇第一	坪内逍遙	同	一二六	一九七
第三十六卷	現代篇第四	岡田八千代	同	一二六	一九七
第三十八卷	現代篇第六	春陽堂編輯部	同	一二六	一九七
第四十四卷	現代篇第十二	有島武郎	同	一二六	一九七
第四卷	並木正三傳	渥見清太郎	同	一二六	一九七
第十二卷	鶴屋南北世話狂言集	同	同	一二六	一九七
世界戯曲全集					
第十四卷	ハウプトマン集	小川菊松	昭和四年五月	一二六	一九八
第二十七卷	勞農露西亞劇集	同	同	一二六	一九八
第三十二卷	佛蘭西古劇集	同	同	一二六	一九八
第八卷	英吉利近代現代劇集	同	同	一二六	一九八

八

書名 著者名 發行年月 冊數 類目番號

第十三卷	獨逸古典劇集	小川菊松	昭和四年十月	一二六	一九八
第二十六卷	卷露西亞近代劇集	同	同	一二六	一九八
第十三卷	獨逸古典劇集	同	同	一二六	一九八
第十五卷	獨逸近代劇集	同	同	一二六	一九八
第十三卷	顔見世狂言集	同	同	一二六	一九八
詳全譯近松傑作集		若月保次	同	一二六	二〇二
續國譯漢文大成					
文學部第二卷	李太白詩地	國民文庫刊行會	昭和四年三月	一二八	一九八
文學部第八卷	韓退之詩集	同	同	一二八	一九八
資治通鑑	第十卷	同	同	一二八	一九八
文學部	第十八卷	同	同	一二八	一九八
經子史部	第十一卷	同	同	一二八	一九八
資治通鑑	第十二卷	同	同	一二八	一九八
蘇東坡詩集	第二卷	同	同	一二八	一九八

書名 著者名 發行年月 冊數 類目番號

日本漢文學史	岡田正之	昭和四年九月	一二八	二三四
復堂遺文	小杉	昭和五年二月	一二八	二三五
御大禮記念兒童文集	臺灣教育會	昭和四年十一月	一二八	二〇二
人生讀本	八住利雄	昭和三年十一月	一二九	一三九
日本古語大辭典	松岡靜雄	昭和四年三月	一二三	二五五
現代作文の模範と練習	森山右一	同	一二三	二九四
日本古語大辭典、語誌	松岡靜雄	同	一二三	二九五
國字問題と漢字	山中秀男	昭和三年十一月	一二三	二九六
漢字保存論	同	昭和四年三月	一二三	二九七
高等國文法講義	木枝増一	同	一二三	二九八
色葉字類抄	山田孝雄	昭和三年九月	一二三	二九九
色葉字類抄	山田孝雄	昭和三年九月	一二三	二九九
色葉字類抄	黒川直頼	同	一二三	三〇〇
假名遣の歴史	山田孝雄	昭和四年七月	一二三	三〇三
日本式ローマ字綴り方	田中館愛橘	昭和五年四月	一二三	三〇五
公用に就き	同	同	一二三	三〇五
かくし言葉の字引	宮本光玄	昭和四年十一月	一二三	三〇六

書名 著者名 發行年月 冊數 類目番號

山梨稻川集	真松修藏	同	同	一二三	二五
英文世界名著全集					
第四卷	ホーソン短篇集	清水起正	昭和三年九月	一二四	二九八
第十九卷	コンラッド短篇集	乙骨五郎	同	一二四	二九八
第九卷	ウイリヤム・増子義亮	同	同	一二四	二九八
第三十九卷	黄金河の王	穴倉保	同	一二四	二九八
第三十八卷	人形の家	林健次郎	同	一二四	二九八
第六卷	驢馬紀行	酒井善孝	昭和四年九月	一二四	二九八
第九卷	オーヘンリ短	佐久間原	同	一二三	二九八
第二十五卷	アラビヤ	中村仲	同	一二四	二九八
第二十七卷	ダンテ神曲物語	大槻憲二	同	一二四	二九八
第三十五卷	モリエール物語	織田正信	同	一二四	二九八
受験和文英譯範例	村井知至	同	同	一二四	三三八
教科英文參考書	櫻井	同	同	一二四	三三九

一九



書名 著者名 發行年月 冊數類目番號  
 和文英譯の學び方 欣場陽平 昭和四年三月 一三四 三〇  
 英文名著全集 國府田國一 昭和四年三月 一三四 三〇

第一輯 第三卷ホウソウ 佐藤 清同 年四月 一三四 三二  
 第十卷銀の筐正し 澤村寅一郎同 年五月 一三四 三二  
 同 裁き色々の忠節 外一名同 年五月 一三四 三二  
 同 第八卷思ひ出の記 エイミ・フォタス 日高只一 年三月 一三四 三二  
 第一卷 阿片服用者の懺悔 磯部彌一郎同 年六月 一三四 三二  
 第四卷 ポー短篇集 深澤由次郎同 年七月 一三四 三二  
 第十二卷 武器と人運 市川又彦同 年八月 一三四 三二  
 第二十三卷 スケッチブック 佐久間 原同 年九月 一三四 三二  
 第二卷 英雄崇拜論 トーマス・カールライル 増田壽之助同 年十一月 一三四 三二  
 第五卷 日ごとの糧 小日向定次郎同 年十月 一三四 三二  
 分る様に英作文の書方 佐伯有三 昭和四年一月 一三四 三二

書名 著者名 發行年月 冊數類目番號  
 インテレクトチュアル・ライフ講義 山本供平 昭和三年十一月 一三四 三三  
 英和法政經濟商業辭典 南 信 孝 昭和四年五月 一三四 三四  
 トワイヌ・トールト・テ ルース 津田芳雄同 年六月 一三四 三五  
 英語單語の相對的新暗記法 鉦者繁晴同 一三四 三六  
 詳解新高等英作文 大橋英三同 年九月 一三四 三七  
 スケッチブック 藤田錦策同 年十月 一三四 三九  
 新英和大辭典 岡倉由三郎 昭和二年三月 一三四 三八  
 新譯和英辭典 三省堂編輯部 昭和四年十一月 一三四 三九  
 正しく覺羅句語入門 井手利一同 年七月 一三八 二

### 第三門 歴史、傳記、地誌、紀行

書名 著者名 發行年月 冊數類目番號  
 日鮮史話 第五篇 松 田 甲 昭和四年八月 一三〇 三六  
 修 洋人日本探檢年表 枋内増次郎同 年二月 一三〇 四六  
 日鮮同祖論 金譯庄三郎同 年四月 一三〇 四七  
 古代研究第一部 民族篇 折口信夫同 一三〇 四八  
 日本歴史 續卷 小林 博同 一三一 一九八  
 國史講座 第十、十一、一二冊 武藤 敏同 一三一 二〇三  
 大日本史講座  
 第六卷 安土、桃山時代史 花見朝己同 年五月 一三一 二八  
 第十六卷 日本思想史 本多辰次郎同 年三月 一三一 二八  
 第十卷 明治時代史 時野谷常三郎同 年四月 一三一 二八  
 第九卷 幕末維新史 藤井甚太郎同 年二月 一三一 二八  
 第八卷 江戸時代史 栗田元次同 年八月 一三一 二八  
 第十二卷 日本外交史 齋藤文藏同 年六月 一三一 二八

書名 著者名 發行年月 冊數類目番號  
 第二卷 平安朝時代史 川上多助 昭和四年七月 一三一 二八  
 第十四卷 日本宗教史 樹下快淳同 年十月 一三一 二八  
 第十五卷 日本風俗史 櫻井 秀同 年九月 一三一 二八  
 天平の文化 鎌田敬四郎 昭和三年十一月 一三一 三三  
 地理的 日本歴史 横井春野同 一三一 三三  
 吉野朝時代記 春藤文藏 昭和四年五月 一三一 三四  
 國史上の思想問題 及川儀左衛門同 年七月 一三一 三五  
 政略結婚と武將の家庭 大塚 久同 年八月 一三一 三六  
 古事記大講 第一卷ヨリ 第十卷迄 水谷 清同 年十一月 一三一 三三  
 少年井伊大老附櫻田門事變 奈良島知堂 昭和三年十二月 一三四 六九  
 赤穂義士觀 徳富猪一郎 昭和四年二月 一三四 七〇  
 維新回天史の一面 同 同 年五月 一三四 七一  
 江戸社會史 吳 文 炳同 年六月 一三四 七二  
 新撰組遺聞 子母澤寛同 一三四 七三  
 読んで面白く修養になる四十七士の逸話集 吉田 眞一同 一三四 七四



書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
幕末外交維新と井伊大老の死	水谷次郎	昭和四年	一三四	七五
大日本史料 第七編の二 第八編の二	東京帝國大學	同	二二六	一七
東洋一位阿波名所案内	岡本丈三郎	同	一三六	一三三
岩倉具視關係文書 第二 大塚武松	同	同	一三六	一三二
諏訪史料叢書 卷十一 今井眞樹	同	同	一三六	一三七
大久保利通文書	大久保家藏版	同	一三六	一三四
地理 日本三千年史蹟	水谷次郎	昭和三年七月	一三六	三五九
遣外使節日記纂輯 第二 大塚武松	昭和四年四月	一三六	三七四	
朝彦親王日記 下卷	同	同	一三六	三七五
天然記念物調査報告	文部省	昭和五年三月	一三六	二七九
加賀藩史料 第二編 侯爵前田家編輯部	同	同	一三六	三六一
朝鮮國寶的遺物及古蹟 青柳南冥	昭和二年十一月	一三六	三六三	
富士の歴史 淺間神社	昭和三年十一月	一三六	三八四	
近世歐人の觀たる謎の藤田清一	同	同	一三六	三八五

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
復古記 第二、三、四、五、六、九、十冊	東京帝國大學	昭和四年十一月	七三六	三六六
嵯峨實愛日記 第一	大塚武松	同	一三六	三八八
吉田東洋遺稿	同	同	一三六	三八九
木戸孝允文書 第一	妻木忠太	同	一三六	三九〇
海事史料叢書 第一、二、三、四、六卷	住田正一	同	一三六	三九一
夷狄の國へ	尾佐竹猛	同	一三六	三九三
亞墨理駕船渡來日記	石野瑛	同	一三六	三九二
聊歌及史讀の研究	小倉進平	同	一三六	三九四
總督政治史篇	青柳綱太郎	昭和三年五月	一三七	三四
參考十八史略通解	島田鈞	同	一三八	一〇一
支那古代史	西山榮久	同	一三八	一〇二
支那歷代年表	中村久四郎	同	一三八	一〇三
支那歷代年表 續編	山根草三	同	一三八	一〇四
物語支那史大系	同	同	一三八	一〇五

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第六卷續三國史	早稻田大學出版部	昭和四年	一三八	一〇四
第三卷 西漢記事、東漢記事	同	同	一三八	一〇四
第二卷 十二朝軍談、列國史前篇	同	同	一三八	一〇四
第一卷 列國史(後篇)、漢楚軍談	同	同	一三八	一〇四
第五卷三國史(下卷)	同	同	一三八	一〇四
第四卷三國史(上卷)	同	同	一三八	一〇四
第八卷 南北朝軍談、隨煬帝(前後篇)	同	同	一三八	一〇四
最新東洋歴史辭典	目黒禧一	同	一三八	一〇五
東洋史講座 第一卷 總論及史籍解題	中山久四郎	昭和四年七月	一三八	一〇六
最新西洋歴史辭典	山上德信	同	一三九	九四
最新西洋歴史 參考 西洋歴史	淺野利三郎	同	一三九	九五
財界巨人叢書 第一輯 古河市兵衛	岡田忠一	同	一三〇	二六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第二編世界巨人叢書 ロイド・ジョージ	岡田忠一	昭和四年六月	一三〇	二七
職員録 昭和四年一月一日	内閣印刷局	同	一三一	二七
大日本博士録 第四卷	渡邊也祐	同	一三一	二八一
勝海舟	山路愛山	同	一三一	四六八
菅公御傳記	菅原恒賢	同	一三一	四六九
近世の巨人正しき成功者和田豊治を語る	野依秀一	同	一三一	四七〇
熾仁親王行實(卷上、下)	高松宮家藏版	同	一三一	四七一
蜂須賀小六正勝	渡邊也祐	同	一三一	四七六
大岡越前守	沼田頼輔	同	一三一	四七七
野口英世博士傳	橋輝	同	一三一	四七八
河野磐洲傳 上、下卷	中山義助	同	一三一	四八〇
加藤高明 上、下卷	伊藤正徳	同	一三一	四八一
清水米藏翁	日本橋區教育會	同	一三一	四八二
全民衆の味方吾等の辯護士布施辰治	本多久	同	一三一	四八三



書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
吉田松蔭先生傳	大久保 龍	昭和四年九月	一三二	四八四	
筑前名家人物誌 上、下	政太郎	明治四十年	一三二	四八五	
平野國臣傳	春山育二郎	昭和四年九月	一三二	四八六	
龍溪矢野文雄君傳	小泉又一	昭和五年四月	一三二	四八七	
歴史を創る人々	早坂二郎	昭和四年五月	一三三	九三	
明治 日本德行録上、下	藤原久吉	同 年八月	一三三	九七	
昭和 大正 日本德行録上、下	藤原久吉	同 年八月	一三三	九七	
ハーバード・フーバー	加藤三郎	同 年三月	一三三	九六	
大統領となるまで	加藤三郎	同 年三月	一三三	九六	
西郷南洲先生	徳富猪一郎	同 年二月	一三三	四一	
木戸松菊先生	徳富猪一郎	昭和三年十二月	一三三	四二	
吾れ等の知れる後藤新	三井邦太郎	昭和四年七月	一三三	四四	
伯平	三井邦太郎	昭和四年七月	一三三	四四	
世界地理風俗大系					
第二卷支那 上	仲摩照久	同 年六月	一三〇	四八	
第四卷南洋	同	同 年三月	一三〇	四八	
第五卷印度	同	同 年八月	一三〇	四八	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
第十卷イギリス	仲摩照久	昭和四年四月	一三〇	四八	
第十五卷中歐諸國	同	同 年十月	一三〇	四八	
第十八卷	同	同 年七月	一三〇	四八	
世界地理精義 下巻	小林房太郎	同 年五月	一三〇	三五	
日本地理風俗大系					
第五卷東海地方	仲摩照久	同 年十月	一三〇	五〇	
十七世紀 世界地理發見史	エドワード・ヘ	同 年十一月	一三〇	五一	
十八世紀 世界地理發見史	エドワード・ヘ	同 年十一月	一三〇	五一	
昭和 三年長崎縣勢要覽	長崎 縣	昭和三年十二月	一三二	一〇	
地理 日本 九州	北垣恭次郎	昭和四年二月	一三二	一三〇	
大日本地誌大系					
第十八卷 五畿内志、泉州志	蘆田伊人	同 年七月	一三二	一四九	
第十六卷 山州名跡志	同	同 年六月	一三二	一四九	
第六卷 新編武藏國風	同	同 年九月	一三二	一四九	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
第十九卷 新編鎌倉志	蘆田伊人	昭和四年八月	一三二	一四九	
第二十卷 三國志上	同	同 年十月	一三二	一四九	
第二十二卷 近江國輿地誌略上	同	同 年二月	一三二	一四九	
第一卷 御府内備考 壹	同	同 年四月	一三二	一四九	
第五卷 新編武藏國風	同	同 年五月	一三二	一四九	
詠 昭和の理想と立山の御	竹島立峰	昭和三年二月	一三二	一五〇	
薩隅日地理纂考	鹿兒島縣教育會	昭和四年九月	一三二	一五一	
昭和 五年 朝鮮要覽	朝鮮總督府	昭和五年二月	一三二	三三	
新興の朝鮮	同	昭和四年九月	一三二	四八	
朝鮮に於ける施設の一	同	同 年三月	一三二	四七	
最近の濠洲及南太平洋	長倉橋介	同 年二月	一三三	七三	
日露協會報告 四六號	關根齊	同 年八月	一三三	一三三	
露紙抄譯 (五三、五四、五五號)	同	昭和五年三月	一三三	二三	
注目すべきメキシコ	吉山基徳	昭和三年七月	一三四	二五	
歐亞に於ける	稻畑勝太郎	昭和四年二月	一三五	二五	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
支那談 眠れる獅子	後藤朝太郎	昭和四年六月	一三五	三三	
新支那訪問記	村松梢風	同 年五月	一三五	二六	
ビルマ遊記	畑中俊應	同	一三五	二七	
傳説 朝鮮名勝紀行	近藤時司	同	一三五	二八	
西比利亞から滿蒙へ	鳥居龍藏	同	一三五	二九	
臺灣遊記	徳富猪一郎	同 年七月	一三五	三〇	
三十三日世界一週	荒木東一郎	同 年六月	一三五	三五	
わすばにや・ぼるつが	木下奎太郎	同 年八月	一三五	三六	
支丹宗門に關する雜彙	同	同	一三五	三六	
第四門 政治、法律、財政、經濟、社會、統計					
昭和 五年 一月 官報	内閣印刷局	昭和五年一月	一四〇	五〇	
昭和 四年 八月 九月 官報	同	昭和四年八月	二四〇	五〇	



書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
大日本帝國議會史	鳥居政幸	昭和三年八月	一四〇	五三
最近政治外交史 續卷	坪井九馬三	昭和四年六月	一四〇	一六九
俗戰國策 其日庵	杉山茂九	同 年三月	一四〇	一八九
伊藤博文秘録	平塚 篤	同 同	一四〇	一九〇
世界政治の眞髓	小島 速一	大正十四年三月	一四〇	一九二
近世々々革命外交史論	吉村 勝治	昭和四年四月	一四〇	一九三
哈爾濱蘇領事館ニテ發覺シタル極東重要陰謀文證の譯文	黃 生	同 年八月	一四〇	一九三
支那現狀の解剖	植原悦二郎	昭和三年十一月	一四〇	一九四
大日本憲政史 自第一卷至第十卷	大津淳一郎	昭和二年五月 昭和三年九月	一四〇	一九六
勞働宰相マクドナルド	澤田 謙	昭和四年九月	一四〇	一九七
現行支那行政	宇 高 寧	大正十五年一月	一四〇	一九八
濱口内閣	濱口内閣編輯所	昭和四年二月	一四〇	一九九
第五十七回貴族院議事速記	内閣印刷局	同 同	一四一	五〇
日本憲法制定史	藤井甚太郎	同 年八月	一四一	六五

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
昭和四年五月一十二月 長崎縣公報	長崎縣廳	同 同	一四二	五〇
行政裁判法	美濃達吉	同 年五月	一四二	一四三
地方制度指覽	良書普及會	同 年六月	一四二	一四四
外交 斷腸記	勝安芳	明治二十三年	一四三	一四五
近世に於ける北方問題の進展	末松保和	昭和三年十一月	一四三	一五六
法律學說判例總覽	高窪喜八郎	昭和四年十月	一四〇	一六二
第十卷ノ二形編第一續編	同 同	同 同	一四〇	一六二
現代法學全集	同 同	同 同	一四〇	一六二
會社法、行氣論、總論、瓦斯事業法及會社法、契約各論、戶籍法及寄留	末弘嚴太郎	同 年五月	一四〇	一九八
第十四卷 契約各論、電氣事業法、瓦斯事業法、會社法、契約各論、戶籍法及寄留	同 同	同 年四月	一四〇	一九八
第十三卷 契約各論、戶籍法及寄留	同 同	同 年一月	一四〇	一九八
第十卷 權總論、契約各論	同 同	同 年一月	一四〇	一九八

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
衆議院議員選舉法、民事訴訟法、刑法法規	末弘嚴太郎	昭和四年六月	一四〇	一九八
第十六卷 海法、民事訴訟法、平國際公法	同 同	同 年七月	一四〇	一九八
第十八卷 平時國際公法、鑛業法	同 同	同 年九月	一四〇	一九八
第十九卷 平時國際公法、銀行法、不動產登記法	同 同	同 年十月	一四〇	一九八
第十七卷 民事訴訟法、銀行法、平國際公法	同 同	同 年八月	一四〇	一九八
第二十卷 破産法、親族法、物權法	同 同	同 年十一月	一四〇	一九八
第二十一卷 物權法、保險契約法、健康保險法	同 同	同 年十二月	一四〇	一九八
最新法制要論	吉本俊二	同 年七月	一四〇	二〇三

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
金解禁後に於ける國民の覺悟	公私經濟緊縮委員會	昭和五年二月	一四〇	二四四
日本經濟大典 自第一卷至第十五卷	瀧本 誠一	昭和三年四月 同 年十二月	九四〇	二四一
日英米金融事情	兒玉 謙次	昭和四年五月	一四〇	二四五
規範經濟學	岡本利吉	同 年十月	一四〇	二四六
産業改造への道 附歐米經濟事情	松永安左衛門	同 年十一月	一四〇	二四七
苦悶の經濟生活	森本厚吉	同 同	一四〇	二四八
日本民族新講	三淵忠彦	同 年三月	一四二	八九
民法重要判決例類典	梶 康郎	同 年四月	一四二	九〇
會社法	財團法人岡野獎學會	同 年九月	一四二	七一
商用法律講話	柴田 健同	同 年七月	一四二	七一
經濟學全集	同 同	同 同	一四二	七一
第三十六卷 經營經濟學	大田哲三	同 年三月	一四二	二四



書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
第二十三卷 經濟學前史	高橋誠一郎	昭和四年五月	一四三〇	二三四
第二十二卷 經濟學說の發展	河西太一郎	同	一四三〇	二三四
第三十七卷 商業學	向井廉松外二名	同	一四三〇	二三四
第十六卷 財政學	阿部賢一同	同	一四三〇	二三四
第二十一卷 租稅論	神戸正雄同	同	一四三〇	二三四
第八卷 經濟學の基礎	河上肇同	同	一四三〇	二三四
第十八卷 社會政策	山川均外三名	同	一四三〇	二三四
現代經濟學全集				
第十六卷 工業政策交通政策	小島精一同	同	一四三〇	二三四
第三卷 經濟學原論	河西副郎同	同	一四三〇	二三四
第十九卷 保險學要論	小島昌太郎同	同	一四三〇	二三四
第四卷 學 マルクス經濟學	高畑素之同	同	一四三〇	二三四
第九卷 社會問題各論	林癸未夫同	同	一四三〇	二三四
第三十卷 統計學	沙見三郎同	同	一四三〇	二三四

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
第六卷 日本經濟史	本庄榮次郎外一名	昭和四年七月	一四三〇	二三一
第七卷 經濟學史	高橋誠一郎	同	一四三〇	二三一
第二十三卷 會計學	高瀬莊太郎	同	一四三〇	二三一
ヨーロッパ經濟史	德增榮太郎	同	一四三〇	二三八
マルクス價值論の排撃	土方成美	同	一四三〇	二四三
經濟小言	武藤山治	同	一四三〇	二四四
パン・ツングーシズム	北川鹿造	同	一四三〇	二七一
同胞の活路	井上維二	同	一四三〇	二六九
海外若き日本の新路	井上維二	同	一四三〇	二六九
亞細亞に生きるの途	雄川新	同	一四三〇	二七〇
海外發展の實際	淺見登郎	同	一四三〇	二七三
拓務要覽	拓務大臣官房文書課	同	一四三〇	二七四
金利及利廻りに關する調査	簡易保險局	同	一四三〇	二八八
生命保險と金融調査第三編	金融研究會	同	一四三〇	二八八

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
長崎縣產業組合要覽	產業組合中央長崎支會	昭和四年七月	一四三三	一六
國民保險政策	簡易保險局	昭和五年一月	一四三三	一九
戰後各國關稅政策概説	日本商工會議所	昭和四年十月	一四四一	二七
本邦工場職長制度概要	惣田太郎	同	一四五〇	二二七
日本團休論	永井享	同	一四五〇	二二九
大日本國體概論	山田孝雄	同	一四五〇	二九七
光は日本より	新東方協會	同	一四五〇	二九八
獨逸の思想文化とマルクス・レーニン主義	荻田胸喜	同	一四五〇	二九九
創造の東洋	眞溪龍三	同	一四五〇	三〇〇
齊家の琴	山崎延吉	同	一四五〇	三〇一
世界國性讀本	大日本國民修養會	同	一四五〇	三〇三
日本とは如何なる國ぞ	田中巴之助	同	一四五〇	三〇五
國際共產黨の話	藤原信孝	同	一四五〇	三〇四
貧民政策の研究	海野幸徳	同	一四五〇	三〇三
明治以後の解放運動	山本正男	同	一四五〇	三〇七

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
昭和三年度帝國水難救濟會報告	帝國水難救濟會	昭和三年	一四三三	三一
長崎養老院概要	宇都宮小次郎	同	一四三三	三二
威化事業回顧三十年	社會局	同	一四三三	三五
金儲實談 岡辰押切帖	谷孫六	同	一四三三	三七
天幕生活	河田祐慶	同	一四三三	三八
處世新道	増田義一	同	一四三三	三九
日本風俗史講座	長坂金雄	同	一四三三	三三
日本風俗書大成				
鎌倉時代	前田青邨	同	一四三三	三九
德川時代初期	松岡映丘	同	一四三三	三九
德川時代中期	菊池契月	同	一四三三	三九
德川時代後期	楠木清方	同	一四三三	三九
足利時代	平福百穂	同	一四三三	三九
安田報彦	安田報彦	同	一四三三	三九



書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
奈良平安時代	安田 靉	昭和四年七月	一四六〇	二九
風俗資料 下	田口鏡二郎	年十月	一四六〇	二九
風俗史の研究	櫻井秀豊	年九月	一四六〇	三〇
御即位禮と大嘗祭講話	國史講習會	昭和三年八月	一四六二	三四
昭和大禮京都府記録	京都府	昭和四年二月	一四六二	三五
時事統計圖集	内山善三郎	年三月	一四七〇	一五
毎日年鑑	荒木利一郎	年九月	一四七〇	一六
長崎縣統計書 第一、四編	長崎縣	自昭和五年三月至昭和四年一月	二四七一	二
時事年鑑	時事新報社	昭和四年十月	一四七一	六五
融和事業年鑑	中央融和事業協會	年八月	一四七一	七七
北海道年鑑	石田 磊	三同 年二月	一四七一	八〇
朝日年鑑	鎌田敬四郎	昭和三年十月	二四七一	八二
昭統統計表	農林大臣官房統	昭和五年三月	一四七一	八三

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
昭和三年度 簡易保險局統計年報	簡易保險局	同	一四七一	八四
昭和三年 東京商工會議所年報 1928	東京商工會議所	昭和四年九月	一四七一	九一
特許局第十二次統計年報	特許局	年九月	一四七一	九八
融和團體の指導方針	山本正男	年八月	一四七一	九九
昭和四年七月東久邇宮殿下臺灣記念重要經濟統計圖表	東京商工會議所	年七月	一四七一	一〇〇
世界各國鐵道統計	鐵道省運輸局	年八月	一四七一	一〇一
蠶絲類及其綿統計表	農林大臣官房統計	同 年七月	一四七一	一〇二
簡易生命保險の死亡率に關する調査	簡易保險局	年二月	一四七一	一〇六
明治大正國勢總覽	東洋經濟新報社	同 年九月	二四七一	一〇七
日本赤十字社各病院患者統計	日本赤十字社	昭和五年二月	一四七一	一〇八
卸賣物價統計表	商工大臣官房統計	昭和四年十月	一四七一	一〇九
臺灣商工統計	臺灣總督府殖産局商工課	昭和五年一月	一四七一	一一〇

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
明治三十三年乃至昭和四年 賃銀統計表	商工大臣官房統計課	昭和五年三月	一四七一	一一二
拓務省統計概要 第一回	拓務大臣官房統計課	同	一四七一	一一三
長崎縣米統計	長崎縣	年二月	一四七一	一一三

第五門 數學、理學、醫學

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
世界數學史	小坂正行	昭和五年一月	一五〇〇	二八
自修中等新代數 參考問題精神	(下卷) 健文所編輯	昭和四年三月	一五二二	八二
最新式代數學	岡田 剛	昭和三年十一月	一五二二	八二
代數準備の新研究	松村定次郎	昭和四年六月	一五二二	八三
受驗幾何のあたま	中島秀次郎	年二月	一五二三	四〇
平面幾何學辭典	石野勝五郎	年四月	一五二三	四一
自然科學 (博物篇)	細井正秀	同	一五三〇	二〇
自然科學總論	杉本唯三	昭和三年十二月	一五三〇	二二
火	石井重美	昭和四年五月	一五三〇	二二
水	納富重雄	昭和二年十二月	一五三〇	二二

書名	著者名	發行年月	冊數	類目番號
趣味の大衆科學	田中祐吉	昭和四年五月	一五〇〇	一一四
アリストテレスより ニュートンまで	永井 潜	年六月	一五〇〇	一一五
化學語彙	片岸初見	年三月	一五二二	八四
化學の標準	日本化學會	昭和三年十二月	一五三三	八六
化學本論	古川重太郎	昭和四年七月	一五三三	八七
昭和五年曆	片岸初見	年十二月	一五三三	八八
太陽研究の新紀元	片山正夫	年十一月	一五三三	八九
臨時氣象要覽	神宮神部署	同	一五三三	九三
本邦溫泉論考	關口 鯉	吉 昭和四年一月	一五三三	七七
動物解剖集成 第三集	中央氣象臺	昭和五年三月	一五三四	三三
昆蟲學概論	石川成章	昭和三年十一月	一五四	八二
參考動物學	秋山 運	三 昭和四年三月	一五五	八三
參考動物學	岡田 剛	昭和四年三月	一五五	八三
參考動物學	松村 松年	同 年八月	一五五	八五
參考動物學	秋山 運	三 昭和五年三月	一五五	八六



書名

著者名

發行年月

冊數類目番號

植物渡來考

白井光太郎 昭和四年六月

一五八 七五

註國譯本草綱目第一冊

同 外一名同

一五六 七六

註國譯本草綱目第三冊

同 同

一五六 七六

註國譯本草綱目第二冊

同 同

一五六 七六

參考植物學

秋山蓮 三同

一五六 七七

赤ちやんから兩親へ

高田義一郎 昭和四年三月

一五七 一八四

子供を賢くする爲に

三田谷啓昭 昭和三年一月

一五七 一八五

衛生長壽法

三宅秀昭 昭和四年四月

一五七 一八六

日曜の生物學

木村小舟 同

一五七 九八

雌雄淘汰

大知達雄 大正十五年十月

一五七 九九

日本及日本國民の起原

小谷部全一郎 昭和四年二月

一五八 六六

世界人類史物語 下

鈴木厚 同

一五八 六四

受驗參考鑛物學

秋山蓮 三同

一五九 二四

地質現象之新解釋

小川琢治 同

一五九 二五

日本青銅器時代地名表

森下六彌 同

一五八 六八

書名

著者名

發行年月

冊數類目番號

考古學講座

第二十九號

長坂金雄 昭和四年六月

二五八 四九

征病篇

三浦謙之助 同

一五〇 七六

現代醫學大辭典

神田豐 同

一五〇 七七

第十四卷小兒科學篇

同

一五〇 七七

第十二卷婦人科學產科

同

一五〇 七七

第七卷內科學篇

同

一五〇 七七

第十六卷皮膚科學篇

同

一五〇 七七

第八卷內科學篇

同

一五〇 七七

第十三卷婦人科學產科

同

一五〇 七七

第十五卷眼科學齒科

同

一五〇 七七

第二卷病理學總論篇

同

一五〇 七七

第十九卷外科整形

同

一五〇 七七

臨時講座

北川 寬 昭和四年六月

六五〇 六八

書名

著者名

發行年月

冊數類目番號

參考生理衛生學

秋山蓮 三 昭和四年十二月

一五二 三三

鍼灸醫術開業法

山崎直文 昭和五年三月

一五六 六八

腦溢血の豫防と治療

佐多芳久 昭和四年十一月

一五六 六九

健康増進叢書

石原忍外四名 昭和四年七月

一五七 一八七

美容篇

法井潛外四名 同

一五七 一八七

性篇

同

一五七 一八七

綜合工學全集

山本忠興 昭和四年十月

一六〇 四六

第十七卷電氣機械下

山田陽清 同

一六〇 四六

第三十二卷河川及び運河

同

一六〇 四六

第六門 工業、工藝、兵事

明治工業史 電氣篇

工學會 昭和三年十月

一六〇 三六

廣島高等工業學校學術報告 第一、四

同上 校昭和四年八月

一六〇 四〇

最新工建築材料と使用 特別法

高敏良 二同 年五月

一六二 六九

書名

著者名

發行年月

冊數類目番號

製圖便覽

猪野修造 昭和三年十二月

一六三 七九

新型ピウイク自動車學 山田英吉 昭和四年四月

一六三 八〇

アルス電氣工學大講座 北原謙雄 同

四六四 九七

東洋鍊金術 近藤直澄 同

一六五 一六

昭和三年度直轄工事年報附圖付 內務省土木局 同

一六〇 二六

理論と實際とを兼ねた漬物の漬け方 笠間治三郎 昭和四年六月

一六〇 三六

純墨とゴム靴塗料特殊ワニスの製造法 山添長四郎 昭和五年二月

一六〇 三八

支那の建築 伊藤清造 昭和四年十月

一六〇 七一

陶磁器試驗所報告附圖 十五案及解説書 第八號一冊付 商工省陶磁器試驗所 昭和五年三月

一六三 七五

支那陶磁の時代的研究 上田恭輔 昭和四年五月

一六三 九九

趣味の陶藝 大森光彦 同

一六三 一〇〇

支那陶磁器史 渡邊素舟 同

一六三 一〇一

亞酸化鉛の新製造法 島津源藏 同

一六三 一〇二



書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
戦記名著集				
第一卷 血	市川譚海	昭和四年六月	一六〇	二四三
第二卷 戰場秘話、鐵蹄夜話	赤堀又次郎	年八月	一六〇	二四三
第四卷 此の一戦軍事談片	水野廣徳	年九月	一六〇	二四三
第五卷 砲彈を潜りて斜陽と鐵血軍服の聖者	川田功	年七月	一六〇	二四三
第八卷 外國武官の觀戰秘聞	最上哲夫	年十月	一六〇	二四三
軍服の聖者	津野田是重	昭和二年九月	一六〇	二四四
軍縮?	伊藤正徳	昭和四年十一月	一六〇	二四五
大海戦秘史(黄海々戰篇)	小笠原長生		一六〇	二四六
倫敦軍縮會議へ	石丸藤太		一六一	二四五
薩藩海軍史 下巻	公爵島津家編輯	年八月	一六三	三三
刀劔實證鑑定法	清水孝教	年五月	一六三	三〇

第七門 産業、商業、交通、通信

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
朝鮮の産業	朝鮮總督府	昭和四年三月	一七〇	七
デンマーク土産	上塚司	年一月	一七〇	七
世界食糧資源論	ゼラツセル・スミス	年六月	一七〇	七
第十回名古屋市勸業要覽	名古屋市勸業部	昭和五年三月	一七〇	七
現代産業叢書				
第四卷 工業篇 上巻	藤山雷太	昭和四年三月	一七〇	二四
第二卷 金融保險篇	池田成林	外四名同	年五月	一七〇
主要食糧農産	農林省農務局	昭和三年九月	一七〇	三二
長崎縣施肥標準調査成績	長崎縣農事試験場	昭和四年五月	一七二	三二
培養秘訣趣味の觀賞植物(野崎園藝叢書第一號)	野崎信夫	年十月	一七〇	二二
實用病蟲害實典	原 鶴	祐同	年四月	二七〇
耕地改良事業要覽	農林省農務局	昭和五年三月	一七二	六九
最新園藝講座 自第四巻至第十八巻	石井勇義	昭和三年六月	一五七	二九
大輪朝顔栽培秘法	尾崎哲五郎	昭和三年四月	一七二	九六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
最新園藝講座 第一巻	尾崎哲五郎	昭和三年七月	一七二	九七
長崎縣主催第一回九州沖繩各縣聯合園藝共進會事業報告	長崎縣	昭和五年三月	一七二	九八
日本作庭資料	龍居松之助	昭和四年十一月	一七二	九八
最新菊の作り方	石井勇義		一七二	一〇〇
球根草花の作り方	同		一七二	一〇一
野菜の栽培調理 下巻	宮田孝次郎	年六月	一七三	二四
山林講演集	伊藤太右衛門	昭和五年二月	一七三	五
林學講座 下巻	園部一郎	外一名	昭和四年六月	一七三
臺灣林業史	臺灣總督府殖産局	同	年十月	一七三
松川養鶏法	松川 潔	同	年五月	一七三
副業養鶏法	衣川 義雄	同		一七三
第三回近畿二府五縣聯合畜産共進會審査復命書	農林省	同	年	一七三
歐洲戦後本邦貿易の趨勢	東京商工會議所	昭和五年一月	一七〇	一五七
我國銀行の合同問題	同	同	一七〇	一五七

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
労働組合法に關する調査	東京商工會議所	昭和五年二月	一七五	一五七
昭和四年長崎稅關貿易要覽	長崎稅關	昭和四年	一五七	五
近東アフリカ經濟事情報告一、近東の部二、アフリカの部	外務省通商局	昭和五年二月	一七五	七一
取引所法並取引所稅法制定及改正議會議速記集	全國取引所同盟聯合會幹事會	昭和四年八月	一七五	二〇
全國文具界大觀(仕入篇) 上下巻	坂本 幹同		一七五	三二
銀行の實際知識	園 顯雄	同	年七月	一七五
商業と經濟 第十輯第二册	伊藤久	秋	昭和五年二月	一七六
日本燈臺表	燈臺局	同	年九月	一七六
九州交通大觀	川野松喜	同	年九月	一七六
名古屋市貨物集散概況	名古屋市産業部	昭和五年四月	一七三	一九
日本運送史	野口雅雄	昭和四年七月	一七三	四二

第八門 美術、家事、諸藝及遊戲

世界美術全集



書名 著者名 発行年月 冊数 類目 番號

第三卷	エトリクス・ボンベイ・日本石器時代・秦漢・印度朝	下中 彌三郎	昭和四年七月	一八二〇	二四
第二十五卷	希臘後期・概説及解	同	同	二八二〇	一四二
第二十六卷	古典派浪漫派ルイ	同	同	二八二〇	一四三
第三十二卷	王朝印度教及德川時代附説	同	同	二八二〇	一四四
第十卷	後期印象派(下)と明治大正時代	同	同	一八二〇	一四二
第十一卷	プレ・セントラル・アジア・唐及弘仁時代	同	同	一八二〇	一四三
埃及美術史	宋高麗時代(一)藤原時代(上)	同	同	一八二〇	一四四
	石山 徹郎	昭和四年七月	一八二〇	一六三	

書名 著者名 発行年月 冊数 類目 番號

佛敎美術	13 14	源 豐	昭和四年六月	一八二〇	一六四
フランスの近代書		板垣 應 樹	同	一八二〇	二三五
浮世繪の研究		落合 直 成	昭和四年三月	二八二	二二一
水繪の手ほどき		赤城 泰 舒	同	一八二	二二〇
昭代法帳		比田 井	昭和三年八月	一八三	九八
第十卷正義の書十七帖		同	同	一八三	九八
第十六卷 藤原行成書文賦		同	同	一八三	九八
第十二卷 諸達良者聖素空公墨蘭書存		同	同	一八三	九八
書道大鑑		山縣公爵傳記編纂會	昭和四年九月	一八二	二〇九
註文字の變遷		鈴木香雨外一名	同	一八二	二一〇
學書三秋		樋口 勇 夫	昭和三年九月	一八二	二一一
文學及書道		中村 不 折	昭和四年五月	一八二	二一二
フィリス氏の馬術		遠川 玄 耳	同	一八二	二一三
滿蒙印書	13 14 合本	遊 佐 幸 平	同	一八四	八
山の呼ぶ聲		天津 幸 市	昭和四年五月	一八四	七三
		藤木 九 三	昭和三年六月	一八四	九二

書名 著者名 発行年月 冊数 類目 番號

幕末文化變遷史	中外文化協會	昭和四年十二月	一八四	九三
昭和大禮寫真帖	大 禮	使昭和五年三月	一八四	九四
萬國圖案大辭典	大 隅 爲 三	昭和四年七月	三八五	四二
萬國圖案大辭典	同	同	三八五	四三
飲料、麵麩、果子、果物の調理法	林 玉 子	同	一八二	七四
最近運動競技の知識	植 田 三 四	同	一八三	二五
兒童陸上競技の指導と實際	柳 藤 一 郎	同	一八三	二六
アルス西洋音樂大講座	北 原 鐵 雄	同	二八三	五七
茶 道	高 橋 龍 雄	同	一八三	四七
弓矢の道續	前 田 直 平	昭和三年十二月	一八四	二二
洋服裁縫叢書	同	同	一八四	二二
第一編 赤坊から歩きはじめまで	西 島 芳 太 郎	昭和四年七月	一八三	六七
名人八段指將棋全集	同	同	一八三	六七
第四卷大崎熊雄集	大 崎 熊 雄	昭和四年一月	一八五	二二

書名 著者名 発行年月 冊数 類目 番號

第七卷花田長太郎集	花田長太郎	昭和四年二月	一八五	二一
第八卷木村義雄集	木村義雄	同	一八五	二二
第九卷小野五平大矢東吉集	小野五平 大矢東吉	同	一八五	二一
第九門 叢書、事象、雜書	同	同	一八五	二一
日本大百科事象 第二卷 家庭	富山房百科辭典編纂所	昭和三年十二月	一九〇	四〇
金言名句の泉 和漢編	村 山 勇 三	昭和四年三月	一九〇	四一
萬有科學大系 續第六卷	仲 藤 照 久	同	一九〇	四二
萬有科學大系 第五、七卷	同	同	一九〇	四三
起原と珍聞	植 原 路 郎	同	一九〇	四六
大思想エンサイクロペディア	同	同	一九〇	四六
第六卷宗教思想	神 田 豊 穂	昭和四年五月	一九〇	四七
第十二卷思想名著	同	同	一九〇	四七
第十三卷社會學	同	同	一九〇	四七
第二十八卷東洋思想辭典	同	昭和四年四月	一九〇	四七



書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號	
第九卷 東洋思想	第二 神田 豊穂	昭和三年九月	一九〇〇	四七	
第三十卷 社會辭典	同	同	年八月	一九〇〇	四七
第四卷 自然科學	同	昭和四年九月	一九〇〇	四七	
第十卷 文藝思想	同	昭和三年一月	一九〇〇	四七	
第二十四卷 思想家辭典	同	同	年四月	一九〇〇	四七
第二十五卷 思想用語辭典	同	昭和四年九月	一九〇〇	四七	
第三十一卷 經濟辭典	同	昭和三年十二月	一九〇〇	四七	
第二十七卷 自然科學辭典	同	昭和四年十一月	一九〇〇	四七	
明治先覺婦人全集	八 國民圖書株式會社	昭和四年八月	一九〇〇	一九	
中等教育改革案批判	文明協會	昭和三年十月	一九〇〇	八三	
文明協會 自一號 至一二號	文明協會	昭和三年十一月	一九〇〇	八三	
ニユーズ	同	昭和四年九月	一九〇〇	八三	
文明協會ライブラリ	同	同	同	八三	
現代丁扶の農村研究	ヒュイゴ・ジョンス 崎常	昭和四年二月	一九〇〇	八三	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
英國社會主義立法	大瀧 信泉	昭和三年十二月	一九〇〇	八三
勞働の哲學	シロ・デ・バール	昭和四年一月	一九〇〇	八三
埃國農産政策	浮田 和民	昭和三年九月	一九〇〇	八三
航空の現状と將來	小磯國昭	昭和四年十一月	一九〇〇	八三
中等教育改革案批判	文明協會	昭和三年十月	一九〇〇	八三
注目すべき南阿と東阿	同	昭和四年九月	一九〇〇	八三
ドレイサーの見たソ	同	同	同	八三
グアイエトロンシヤ	同	同	同	八三
現代政治是非	同	同	同	八三
新註皇學叢書 第一、七卷	物集 高見	昭和三年三月	二九〇〇	九〇
別刷集 第四	豐藤報恩會學術研究總務部	昭和四年七月	一九〇〇	九一
世界大思想全集	同	同	同	九一
第一卷 山路愛譯文大	神田 豊穂	昭和四年五月	一九〇〇	九二
第八卷	ツアラトウス	昭和四年二月	一九〇〇	九二

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號	
第五十二卷 東西宗教文獻篇	野々村 戒三	昭和四年四月	一九〇〇	九二	
第十二卷 國論 下卷	アダム・スミス 吉野 秀吉	同	年一月	一九〇〇	九二
第五卷 法的精神君主論	神田 豊穂	昭和三年十二月	一九〇〇	九二	
第二卷 譯文大日本史	同	昭和四年八月	一九〇〇	九二	
第六卷 羅馬衰亡史	エドワード・キボン 野々村 戒三	同	年七月	一九〇〇	九二
第十三卷 十九世紀文學主張史	吹田 順助	同	年三月	一九〇〇	九二
第二十六卷 世界文化史	北川 三郎	同	年六月	一九〇〇	九二
第三十七卷 社會學原論	内山 監次郎	同	同	一九〇〇	九二
第三十九卷 社會學原論	神田 豊穂	同	年七月	一九〇〇	九二
第二十二卷 精神分析論文集	フロイド・シヨウ 中村 古峯	同	同	一九〇〇	九二
第三十七卷 社會學要論	ギョッティンク 内山 賢次	同	年六月	一九〇〇	九二

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號	
第五十卷 太陽の都	カンペネラ・モリア 外二名	同	年十月	一九〇〇	九二
第十一卷 佛蘭西革命史	トーマス・カー 柳田 泉	同	昭和四年十月	一九〇〇	九二
第三十卷 智識學宗教史	フイヒテ 外一名	同	年十月	一九〇〇	九二
第二十一卷 英國社會主義史	マツクス・ベエ ヤア	同	年八月	一九〇〇	九二
第三十一卷 精神現象の分類について	ベリター 外二名	同	年十二月	一九〇〇	九二
第四十三卷 精神現象の分類について	中山 呂樹 外二名	同	同	一九〇〇	九二
羽仁もと子著作集	羽仁もと子	同	同	一九〇〇	九二
明治文化全集	同	同	同	一九〇〇	九二
第一卷 皇室篇	吉野 作造	昭和三年十一月	一九〇〇	九五	
第八卷 法律篇	同	昭和四年五月	一九〇〇	九五	
第九卷 經濟篇	同	同	同	九五	
第十五卷 思想篇	同	同	同	九五	
第七卷 政治篇	同	同	同	九五	



書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
蘇峰叢書					
第二十二卷 雜史篇	吉野作造	昭和四年十一月	一九〇	九五	
第一卷 皇室と國民	徳富蘇峰	昭和三年二月	一九〇	二〇二	
第二卷 名山遊記	同	同	一九〇	二〇二	
第三卷 國民と政治	同	同	一九〇	二〇二	
第四卷 好書品題	同	同	一九〇	二〇二	
第五卷 書齋感興	同	同	一九〇	二〇二	
第六卷 人物偶録	同	同	一九〇	二〇二	
第七卷 關東探勝記	同	同	一九〇	二〇二	
第八卷 言志小録	同	同	一九〇	二〇二	
社會思想全集					
第二十五卷 唯一者と其の所有	島中雄	昭和四年五月	一九〇	二〇三	
第十四卷 資本蓄積論	宗道太外二名譯	同	一九〇	二〇三	
第二十三卷 無産階級の哲學	島中雄	同	一九〇	二〇三	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
史的唯物論	島中雄	昭和四年四月	一九〇	一〇三	
第十六卷 派經濟學	マルクス	同	一九〇	一〇三	
第二十四卷 術論	レニンのイズムの基礎	同	一九〇	一〇三	
第二十九卷 叛逆者の言	葉近代科學	同	一九〇	一〇三	
第十三卷 無政府主義	近代國家論	同	一九〇	一〇三	
第三十六卷 婦人の革命	創造的行動	同	一九〇	一〇三	
第九卷 戸參府紀行	異國叢書	同	一九〇	一〇六	
第六卷 日本見聞録	ビスカイの銀	同	一九〇	一〇六	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
岩波講座 世界思潮	岩波茂雄	昭和四年四月	一九〇	一〇〇	
岩波講座 世界思潮	同	昭和三年七月	一九〇	一〇〇	
上田敏全集	上田敏	昭和四年九月	一九〇	二二三	
主婦の友實用百科叢書					
第四十篇 方の作り	主婦の友社編輯部	同	一九〇	二六	
朝日常識講座					
第六卷 都市と農村	柳田國男	昭和四年三月	一九〇	二二七	
第七卷 物價の語	牧野輝智	同	一九〇	二二七	
第八卷 文藝の話	土岐善麿	同	一九〇	二二七	
第九卷 婦人問題の話	鈴木文四郎	同	一九〇	二二七	
第十卷 新聞の話	杉村廣太郎	同	一九〇	二二七	
第一卷 太平洋問題	米田實	同	一九〇	二二七	
第二卷 美術の話	坂崎坦外一名	同	一九〇	二二七	
第三卷 社會と新聞	美土路昌一	同	一九〇	二二七	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
改造文庫					
第二部 66 空を仰ぐ	土岐善麿	昭和四年四月	一九〇	二八	
第一部 20 國家論	フランツ・オット	同	一九〇	二八	
62 人間往來	廣島定吉	同	一九〇	二八	
37 中江兆民集	與謝野晶子	同	一九〇	二八	
19 エミル	中江兆民	同	一九〇	二八	
11 マルキシズム認識論	ルソ	同	一九〇	二八	
14 神と國家	内山賢次	同	一九〇	二八	
第二部 41 草枕	ヨゼス・デイス	同	一九〇	二八	
57 川のほとり	石川準十郎	同	一九〇	二八	
60 立春	本莊可宗	同	一九〇	二八	
63 梶の木	夏目漱石	同	一九〇	二八	
第一部 40 三民主義	古泉千樞	同	一九〇	二八	
48 マルキシズム國家觀	木下利玄	同	一九〇	二八	
	窪田空穂	同	一九〇	二八	
	孫中山	同	一九〇	二八	
	金井寛三	同	一九〇	二八	
	山本	同	一九〇	二八	



書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
41 唯一者とその所	マックス・ステイ ネル	昭和四年	一	二二八
第二部 16 神皇正統記	宮地直一	同	一	二二八
37 平凡	二葉亭主人	同	一	二二八
38 子規俳話	正岡子規	同	一	二二八
39 組織論	鈴木厚	同	一	二二八
52 小公子	若松賤子	同	一	二二八
55 自選歌集朝の螢	齊藤茂吉	同	一	二二八
64 同 野原の郭公	若山牧水	同	一	二二八
65 同 原生林	前田夕暮	同	一	二二八
67 作曲白秋童謡集	北原白秋	同	一	二二八
69 作曲白秋舞踊詞集	同	同	一	二二八
80 背徳者	アンドレ・ジイド 石川淳	同	一	二二八
71 チエホフ書簡集	内山賢次	同	一	二二八
88 寡婦マルタ	エリイザ・オル ゼシコ 清見陸郎	同	一	二二八

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
90 井泉水句集	莫原井泉水	昭和四年八月	一	二二八
43 全譯金融論	ヒルファ・デイ 林	同	一	二二八
新潮文庫				
第四卷 破船	久米正雄	昭和三年十二月	一	二二〇
第十六卷 晶子短歌全集	與謝野晶子	昭和四年六月	一	二二〇
芳賀矢一遺著	芳賀矢一	昭和三年十月	一	二二〇
春秋文庫				
第一卷 科學的生命觀	永井 潜	昭和四年一月	一	二二三
第二卷 晩近の心理學	久保良英	同	一	二二三
田能村竹田全集	廣谷雄太郎	大正十三年十月	一	二二三
伊藤痴遊全集				
第八卷 快傑傳	伊藤仁太郎	昭和四年三月	一	二二五
第十卷 星亨	前編	同	一	二二五
第一卷 西郷南洲	前編	同	一	二二五
第十一卷 海外雄飛豪快傳	同	同	一	二二五

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第十二卷 明治海外雄飛豪快史	伊藤痴遊	昭和四年	一	二二五
第四卷 大久保利通	同	同	一	二二五
第五卷 乃木希典	同	同	一	二二五
第七卷 伊藤博文井上馨	同	同	一	二二五
第六卷 佐久間象山、吉田松蔭、高杉晋作、原敬	同	同	一	二二五
第九卷 星亨	後編	同	一	二二五
澤庵和尚全集	同上刊行會	同	一	二二六
澤庵和尚全集	同上	同	一	二二六
岩波文庫				
235 福澤選集	福澤諭吉	昭和三年一月	一	二二八
292 經濟學及課稅之原理	小泉信三	同	一	二二八
442 自然に於ける美藝術の一般的意義	グエ・ツロワイ 高村理知夫	同	一	二二八
297 歌舞音樂略史	小中村清矩	同	一	二二八

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
398 ベーベル婦人論	草間平作	昭和四年三月	一	二二八
218 經濟要録	佐藤信淵	昭和三年二月	一	二二八
266 獨逸國民に告ぐ	大津 康	同	一	二二八
133 マルクス資本論	河上肇	同	一	二二八
177 法の精神	モンテスキュー 宮崎俊義	同	一	二二八
272 地代論	ロイド・ベルト 山口正吾	同	一	二二八
134 マルクス資本論	河上肇	同	一	二二八
247 生命の不可思議	ヘンリッヒ 後藤格次	同	一	二二八
174 スピーザ哲學大系	小尾範治	同	一	二二八
432 エミール	ルソフ	同	一	二二八
93 俗樂旋律考	上原大四郎	同	一	二二八
491 茶の本	岡倉覺三	同	一	二二八
462 カントとゲエテ	ゲオルク・ジム 谷川 徹三	同	一	二二八
392 ミル自傳	西本正美	同	一	二二八



書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
ラツサル労働者綱領	小泉信三	昭和三年十月	一九〇	二二六
ペーベル婦人論	草間平作	同上	一九〇	二二六
希臘羅馬神話	トコス・バルフ インチ 野上ヤヨイ子	昭和二年十月	一九〇	二二六
プロタゴラス	菊地慧一郎	同上	一九〇	二二六
自然認識の限界について	デユボアレーモ 坂田徳男	昭和三年十二月	一九〇	二二六
宇宙の七つの謎	イマリスエル・カント	昭和二年十月	一九〇	二二六
労働、価格および潤利	河上肇	昭和二年十二月	一九〇	二二六
純粹理性批判	イマリスエル・カント	昭和四年一月	一九〇	二二六
資本主義の帝國主義としての義	レニ 長谷部文雄	同上	一九〇	二二六
此の人を見よ	安部能成	昭和三年十月	一九〇	二二六
マルクス資本論	河上肇	昭和四年六月	一九〇	二二六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
申樂講義	野上豊一郎	昭和三年五月	一九〇	二二六
生命の不思議上	後藤格次	同上	一九〇	二二六
イミターシヨ・クリスチ	内村達三郎	同上	一九〇	二二六
七大哲人	ルードルフ・オイクン	同上	一九〇	二二六
猶太人問題を論ず	安倍能成	同上	一九〇	二二六
マルクス・エンゲルズ	久留間鮫造	同上	一九〇	二二六
雑種植物の研究	長谷部文雄	昭和四年八月	一九〇	二二六
清澤文集	小泉丹	同上	一九〇	二二六
日本永代藏	井原西鶴	昭和三年一月	一九〇	二二六
資本論初歩版鈔	長谷部文雄	昭和四年六月	一九〇	二二六
唯一者とその所	草間平作	同上	一九〇	二二六
アリストテレスの國家	原隨	昭和三年七月	一九〇	二二六
嫁入叢書	高木興千代	昭和四年五月	一九〇	二二六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
家政篇	井上秀子	昭和四年四月	一九〇	二二九
妊娠と安産篇	久慈直太郎	同上	一九〇	二二九
手藝篇	山脇敏子	同上	一九〇	二二九
和服裁縫篇	石田はる	同上	一九〇	二二九
第一義例話全集第二卷	小原國芳	昭和三年十二月	一九〇	二二七
新青年叢書				
第一卷 青バスの女	辰野九紫	昭和四年五月	一九〇	二二〇
第二卷 ともり綺譚	ウツドハウス 梶原信一郎	同上	一九〇	二二〇
國体科學叢書				
第二卷 國体認識學	里見岸雄	昭和四年四月	一九〇	二二六
第三卷 國体宗教批判	同	同上	一九〇	二二六
第五卷 國体倫理學	船口萬壽	同上	一九〇	二二六
第七卷 日本經濟史	石井秀雄	同上	一九〇	二二六
第九卷 日本社會階級史	同	同上	一九〇	二二六
第十一卷 労働問題批判	鈴木弘義	同上	一九〇	二二六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
ヘツベル (學藝叢書の五)	吹田順	昭和四年一月	一九〇	二二九
原敬全集 (下、上巻)	田中朝吉	同上	一九〇	二二九
南蠻秘聞帳	三島才三	同上	一九〇	二二九
政治ライブラリー				
第一卷 歐米政界の新潮	水野練太郎	昭和四年二月	一九〇	二四〇
第二卷 世界經濟と國際金融	堀口歸一	昭和二年一月	一九〇	二四〇
第四卷 國際聯盟政策論	神川彦松	同上	一九〇	二四〇
第五卷 社會思想文典	永井亨	同上	一九〇	二四〇
第六卷 婦人參政權論	森口繁二	同上	一九〇	二四〇
第七卷 英國政治制度	占部百太郎	昭和三年六月	一九〇	二四〇
第八卷 近世經濟學說史	高橋誠太郎	同上	一九〇	二四〇
第九卷 政黨及政黨史	田川大吉郎	昭和四年三月	一九〇	二四〇
最近政治思想史	高橋清吉	昭和三年三月	一九〇	二四〇
フアブル科學智識全集				
第一卷 天体の驚異	安成四郎	昭和四年九月	一九〇	二四一



書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第三卷自然科學物語	安成 四郎	昭和四年八月	一九〇	一四二
中山文化研究所紀要	中山文化研究所	昭和四年十二月	一九〇	一四三
駒ヶ嶽噴火概観	市立函館圖書館	年八月	一九〇	一四三
秩父宮妃殿下と會津の教育	木村 定三	昭和三年十一月	一九〇	一四四
津輕海峽と生物の分布	市立函館圖書館	同	一九〇	一四五
日本讀書第九十四號	佐久間秀雄	昭和四年一月	一九〇	一四六
協會々報第八十五號	同	同	一九〇	一四六
外國新聞と雜誌	同	同	一九〇	一四七
最新科學講座 別卷一、二	石井重美 外一名	年二月	二九〇	一四九
誰にもわかる科學全集	同	年八月	二九〇	一四九
第三卷地球の今昔	原田 三夫	昭和四年九月	一九〇	一四八
第六卷草木の世界	同	年十月	一九〇	一四八
第九卷 最新發明ローマンズ	同	年八月	一九〇	一四八
佛蘭西科學 上卷	松山直治郎	年十一月	一九〇	一五〇
思ひ出を語る	小笠原長生	年五月	一九〇	一七三

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
大阪府立圖書館增加和漢圖書目録	大阪府立圖書館	昭和五年四月	一九四〇	一七
臺灣總督府圖書館增加圖書目録	臺灣總督府圖書館	昭和四年三月	一九四〇	三六
石川縣立圖書館增加圖書目録	石川縣立圖書館	昭和四年三月	一九四〇	四三
東京書籍圖書總目録	大倉保五郎	昭和四年二月	一九四〇	五二
神戸市立圖書館增加和漢圖書分類目録	神戸市立圖書館	年九月	一九四〇	七三
官廳刊行圖書目録	内閣印刷局	昭和二年七月	六九四〇	一一
奈良縣人著述目録	奈良圖書館	昭和四年三月	一九四〇	一三〇
式年遷宮伊勢神宮關係書	大阪圖書館	年九月	一九四〇	一三一
郷土志料綜合目録	新潟圖書館	年七月	一九四〇	一三二
横濱市立圖書館增加目録	横濱市立圖書館	年五月	一九四〇	一三三
德島縣立光慶圖書館增加和漢圖書目録	光慶圖書館	年三月	一九四〇	一三四
石川縣立圖書館巡回書庫和漢圖書分類目録	石川縣立圖書館	同	一九四〇	一三五

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
郷土志料目録	山口圖書館	年六月	一九四〇	一三六
日本讀書協會報解書目	佐久間秀雄	昭和二年四月	一九四〇	一四二
科學と人間生活	田中清之	昭和四年一月	一九五〇	七五
讀賣新聞	三苦 亥吉	昭和四年九月	三九六〇	五
讀賣新聞	同	年十二月	二九六〇	五
讀賣新聞	同	昭和五年二月	一九六〇	五
大阪朝日新聞縮刷版	一花 健藏	年二月	一九六〇	二七
大阪朝日新聞縮刷版	同	昭和五年一月	一九六〇	二七
大阪朝日新聞縮刷版	同	昭和四年六月	二九六〇	二七
長崎新聞	宮崎 俊藏	昭和五年二月	一九六〇	二八
長崎新聞	同	昭和四年十二月	一九六〇	二八
長崎新聞	同	年九月	三九六〇	二八
朝鮮新聞	朝鮮總督府官房	年十月	一九七〇	一三
大乘	雜誌	自大正十五年十二月	二九七〇	一三
合本	至昭和二年十二月	同	一九七〇	一三

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
兒童圖書	菊池 寛	昭和四年五月	一〇〇〇	一九
黑馬物語	蘭ダース	同	一〇〇〇	一九
趣味の豊かな支那歴史	吉田 辰治	昭和五年三月	一〇〇〇	二〇
少年修養叢書	岡本 瓊	昭和四年六月	一〇〇〇	二二
少年科學世界	岡本 瓊	同	一〇〇〇	二二
第一卷飛行機のお話	關口 定伸	昭和三年七月	一〇〇〇	三三
第二卷自動車のお話	同	同	一〇〇〇	三三
第五卷電氣のお話	同	同	一〇〇〇	三三
第六卷航海のお話	同	同	一〇〇〇	三三
第七卷自然科學のお話	同	同	一〇〇〇	三三
第八卷魔法理科のお話	三澤 隆英	同	一〇〇〇	三三
三百六十五日母子讀本	家庭教材研究會	昭和三年四月	一一〇〇	八四
聖書文庫	同	同	一一〇〇	八四



書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第五卷 苦んで苦み抜いた人の話	金田享助外三名	昭和三年四月	一	二〇〇 四八四
イエスキリストの話	上澤謙二	同	年十一月	一 二〇〇 四八四
佛教童話全集 第四卷	萬里谷龍兒	昭和四年八月	一	二〇〇 五〇六
佛教童話全集 第一、八、十三卷	同	同	年五月	三 二〇〇 五〇六
學校家庭模範年別兒童文庫	模範兒童文庫刊行會	昭和三年十二月	一	二〇〇 五二二
四年生の童話	同	同	同	一 二〇〇 五二二
六年生の童話	同	同	同	一 二〇〇 五二二
金の星家庭文庫	同	同	同	一 二〇〇 五二二
第四卷 千里小公子奴隷トム物語	母を尋ねて三金の星編輯部	昭和四年四月	一	二〇〇 五二三
世界童話全集	同	同	同	一 二〇〇 五二三
日本童話集	松元竹二	昭和三年十一月	一	二〇〇 五二五
支那童話集	同	昭和四年六月	一	二〇〇 五二五
アラビヤン、ナイト	同	同	同	一 二〇〇 五二五
世界童話集 (上下巻)	同	同	年九月	一 二〇〇 五二五
	同	同	年十二月	一 二〇〇 五二五

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
アンデルセン童話集	松元竹二	昭和四年七月	一	二〇〇 五二五
フランス童話集	同	同	年九月	一 二〇〇 五二五
朝鮮臺灣アイヌ童話集	同	同	年十月	一 二〇〇 五二五
イタリー童話集	同	同	年十二月	一 二〇〇 五二五
實になるまで	安部季雄	同	年七月	一 二〇〇 五二四
繪入世界童話集 印度の巻	大戸喜一郎	同	年六月	一 二〇〇 五二五
新日本少年文學全集	同	同	同	一 二〇〇 五二五
第二卷 長編童話集	沖野岩三郎	昭和四年五月	一	二〇〇 五二六
第七卷 幼年冒險小説集	安部季雄	同	年六月	一 二〇〇 五二六
第十七卷 兒童劇集	坪内逍遙外六名	同	同	一 二〇〇 五二六
第一卷 建國物語集	蘆谷蘆村	同	同	一 二〇〇 五二六
第四卷 科學童話集	廣田花崖	同	年九月	一 二〇〇 五二六
うさぎの心配	カナオトギ文庫第二十二卷	同	年五月	一 二〇〇 五二七
カナ、シヨクブツノハナシ	玉置光三	同	同	一 二〇〇 五二八

世界童話集

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第二集 湖水の女	餘木三重吉	昭和四年五月	一	二〇〇 五二九
第一集 黒い騎士	同	同	同	一 二〇〇 五二九
第三集 踊のたき火	同	同	年八月	一 二〇〇 五二九
日本兒童文庫	同	同	同	一 二〇〇 五二九
第三十七卷 日本勇者物語	江見水臨	昭和三年八月	一	二〇〇 四八二
第二十七卷 イソップ物語	新村出	昭和四年七月	一	二〇〇 四八二
第五卷 西洋歴史物語	大類仲	同	年六月	一 二〇〇 四八二
第五十八卷 日本の旅	田中啓爾	同	年七月	一 二〇〇 四八二
第四十四卷 珍らしい動植物	川村清一	同	年六月	一 二〇〇 四八二
第二十三卷 日本童話集	北原白秋	同	同	一 二〇〇 四八二
第九卷 世界神話傳説集	松村武雄	同	年三月	一 二〇〇 四八二
第五十五卷 日本の名畫	笹川臨風	同	年四月	一 二〇〇 四八二
第二十卷 世界童話集 (下巻)	山崎光子外一名	同	年五月	一 二〇〇 四八二

書名

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
第八卷 日本神話傳説集	柳田國雄	昭和四年五月	一	二〇〇 四八一
第十二卷 日本昔話集	金田京助外三名	同	年四月	一 二〇〇 四八一
第七卷 東洋歴史物語	藤田豊八	同	年十一月	一 二〇〇 四八一
第十四卷 印度童話集	高倉輝	同	年十月	一 二〇〇 四八一
第二十五卷 世界童話集	北原白秋外四名	同	年八月	一 二〇〇 四八一
第三十四卷 太平記物語	島崎藤村	同	同	一 二〇〇 四八一
第六十一卷 日本と世界	鶴見祐輔	同	同	一 二〇〇 四八一
第六十八卷 兒童唱歌集	本居長生	同	年十月	一 二〇〇 四八一
偉くなつた少年少女の話	金の星編輯部	昭和三年十月	一	二〇〇 五三三
愛のふるさと	安部季雄	昭和四年五月	一	二〇〇 五三〇
カナドゥブツノハナシ	玉置光三	同	同	一 二〇〇 五三一
JOAK童話集	日本放送協會關東支部	同	年三月	一 二〇〇 五三二
祝祭日のお話集	長尾豊	同	年九月	一 二〇〇 五三九
學校用沙翁劇脚本	三浦成作	同	年五月	一 二〇〇 五三三
兒童神話希臘の勇士	太 郎	昭和三年五月	一	二〇〇 五三四



書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
少年小説かゞやく小川	吉田 絃二郎	昭和二年一月	一	二〇〇五
教訓史話少年美談	高瀬 火海	昭和三年四月	一	二〇〇五
夢の國から	入江 則吉	昭和四年二月	一	二〇〇五
聖徳櫻咲く國の天子様	樋口 紅葉	同	一	二〇〇五
上澤謙二物語集	上澤 謙二	昭和四年九月	一	二〇〇五
第六輯 おさなけれど	上澤 謙二	昭和四年九月	一	二〇〇五
ひろすけひろすけ童話集	上澤 謙二	昭和四年九月	一	二〇〇五
童話讀本第五集	上澤 謙二	昭和四年九月	一	二〇〇五
課外讀物文庫	上澤 謙二	昭和四年九月	一	二〇〇五
水戸黃門物語	ヨリネン社	昭和四年二月	一	二〇〇四
一休禪師物語	石井 容年	同	一	二〇〇四
アーサー物語	同	同	一	二〇〇四
兒童の神化の話	中村 徳五郎	同	一	二〇〇六
兒童の幕末維新	同	同	一	二〇〇六
新日本の小學國史	大久保 馨	同	一	二〇〇七
少年世界地理文庫	同	同	一	二〇〇七

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
イギリス、支那、アメリカ合衆國	西 龜正夫	昭和四年五月	三	三〇〇七
少年豊臣太閤	杉本 浩記	同	一	三〇〇五
少年楠木正成の精忠	濱田 壽郎	同	一	三〇〇五
少年塙保己一傳	大野 武男	同	一	三〇〇七
少年八幡太郎義家	大久保 龍同	同	一	三〇〇七
少年東郷平八郎	山口 實	同	一	三〇〇七
義経物語	吉田 治助	同	一	三〇〇八
圖解科學電氣玩具の作り方	秋田 保郎	同	一	三〇〇八
世界少年少女偉人傳大系	松平 道夫	昭和三年十一月	一	三〇〇八
第十二卷 ムツソリニ	成田 龍平	昭和四年七月	一	三〇〇八
第十五卷 乃木希典	成田 龍平	昭和四年七月	一	三〇〇八
學習文庫	成田 龍平	昭和四年七月	一	三〇〇八
第八卷 趣味の小學地理世界の部下	及川 泰治	昭和三年十一月	一	三〇〇八
第七卷 外國の部	同	同	一	三〇〇八

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
新古事記讀本	三浦 藤作	昭和四年五月	一	一三〇〇九
子供の科學文庫	原田 三夫	同	一	一三〇〇九
第一卷 汽車、汽船	同	同	一	一三〇〇八
第二卷 自動車、電車	同	同	一	一三〇〇八
第四卷 ラジオ、映畫	同	同	一	一三〇〇八
第五卷 草、木、花	同	同	一	一三〇〇八
第六卷 山、海	同	同	一	一三〇〇八
第七卷 獸、魚	同	同	一	一三〇〇八
第八卷 星 (恒星、惑星)	同	同	一	一三〇〇八
第九卷 太陽、月、地球	同	同	一	一三〇〇八
第三卷 飛行機、航空船	同	同	一	一三〇〇八
理科動物の武器	小 貴志	同	一	一三〇〇八
化學少年電氣物語	桑田 春風	同	一	一三〇〇八

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
長崎府醫學學校規則並附錄	長 沼賢海	同	一	三二六
南蠻文集	同	同	一	三二六
珍書大觀 吉利支丹叢書	中谷 仙之助	昭和三年六月	七	三二六
寫真集	東 藤次郎	昭和三年九月	七	三二六
寫真集	中谷 源之助	昭和四年一月	二	三二六
七科觀念書	大阪毎日新聞社	昭和三年十月	一	三二六
佛書抄録	同	同	一	三二六
オラシヨ雜纂斷簡	同	同	一	三二六
ごちりな、きりしたん	昭和三十二年一月	一	三二六	
諸聖人記念日表	昭和三十二年十二月	一	三二六	
吉利支丹心得書	同	同	一	三二六
諸聖人御作業書抄及宗門諸抄	同	同	一	三二六
破提字子	同	同	一	三二六

史 料



書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
西洋銅版畫帖	大阪毎日新聞社	昭和四年八月	一	三二六
吉利支丹用語解斷簡	同	同	一	三二六
北京伊蘇普噲言	中田敬義	同	一	三二六
肥前千々岩町方言誌	山本清民	同 年七月	一	三二四
觀連記	中島 實	足天保八年一月	一	三二六
洋學發展と明治維新	吳 秀 三	同	一	三二六
昭和五年一月、二月	向井 虎 治	昭和五年二月	一	三二六
長崎日々新聞	同	同	一	三二六
昭和四年十一月、十二月	同	昭和四年十二月	一	三二六
長崎日々新聞	同	同	一	三二六
グンブエル江戸參府紀	吳 秀 三	同 年六月	一	三二六
行	同	同	一	三二六
ドソ・ロドリゴ日本見聞録	村上直次郎	同 年四月	一	三二六
探檢報告	同	同	一	三二六
幕府秘密復命書	同	同	一	三二六
忠房公御道狀記	同	同	一	三二六
諫早史談	同	同	一	三二六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
家忠日記 自一至五	村上直次郎	同 年十月	一	三二六
異國往復書翰集増訂異國日記抄	同	同	一	三二六
長崎港改良工事記録	同	同	一	三二六
慶元イギリス書翰	岩生成一	同 年八月	一	三二六
日英交通史概覽	武藤長健	同 年十一月	一	三二六
寛永平寨録	同	同	一	三二六
海外高名人物表	太田 眞 琴	同	一	三二六
長崎古今學藝書畫博覽	風俗繪卷圖會刊	大正八年七月	一	三二六
故中村六三郎先生二十三週年法要記念帖	同	同	一	三二六
嘉永壬子年咬嚼吧都督より長崎奉行元書	同上	同	一	三二六
長崎振遠隊に就いて江戸薩藩邸の焼打	大河 平 隆	大正十年三月	一	三二六
高島秋帆事件留書	同	同	一	三二六
長崎地震年報	長崎測候所	昭和四年二月	一	三二六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
測量集成 一、二、三	花井喜十郎	同	三	三二六
砲術備用	同	同	一	三二六
御非番御手配帳寫	田口五郎右衛門	同	一	三二六
天保十二年丑五月	同	同	一	三二六
シポルト日本交通貿易史	吳 秀	三昭和三年五月	一	三二六
南蠻稀聞帖	三島才二	同 年二月	一	三二六
長崎港之圖	玉木鶴亭哉	同	一	三二六
肥前長崎圖	同	同	一	三二六
五山の山水	同	同	一	三二六
本籠町傘鉾の垂	同	同	一	三二六
蜀山人の歌	同	同	一	三二六
臺灣生蕃人首袋	同	同	一	三二六
銅座ソロバン	同	同	一	三二六
古 鏡	同	同	一	三二六
臺灣ゼーランジャ城の跡より掘出した壺	同	同	一	三二六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目番號
臺灣ゼーランジャ城の煉瓦	同	同	一	三二六





受贈圖書

(自昭和四年十二月  
至昭和五年四月)

山田吉太郎氏寄贈(毎年金三百圓ヲ投ジテ購入寄贈セラル)

○寛永平寒録(寫本)六冊○肥前史料通信一冊○高島秋帆教練書一冊○長崎振遠隊に就て、江戸薩藩邸の燒討一冊○從征日記一冊○御非番御手配帳一冊○高島秋帆事件留書一冊○咬啗吧都督より長崎奉行江書上一冊○長崎土産一冊○薩摩史料通信一冊○Engelberto Kaemper. The history of Japan. I vol. 1729

長崎縣廳寄贈

○長崎縣麥統計書○公私經濟緊縮映畫筋書集○長崎縣統計書第編○圖書館書籍標準目錄○長崎縣史蹟名勝天然記念物第六輯昭和四年○官立高等學校高等科入學者選拔ニ關スル調査昭和三年○長崎縣勢要覽○全國高等女學校實科高等女學校ニ關スル調査○金解禁前後の經濟事情○第一回九州沖繩各縣聯合園藝共進會事業報告○兵役法施行令第五條第三號ノ規定ニ依ル認定各種學校ニ關スル調査○男女青年團休ニ關スル調査○青年訓練ニ關スル調査昭和二年○長崎縣統計書第一編昭和三年○長崎縣統計書第四編昭和四年○耕地擴張改良事業要覽第九次○全國育英事業概況○太平洋地方ノ天然保護及蘭領東印度ノ天然記念物保存以上各一冊

アルス社寄贈

○兒童唱歌集○印度童話集○法制經濟の話○世界の名畫○東洋歴史物語○日本と世界○歌、俳句、諺○西洋歴史物語下以上各一冊

日本力行會寄贈

○海外立志傳○新渡航法○南米一巡○兩米再巡以上各一冊

市立函館圖書館寄贈

○函館圖書館叢書第一編○秩父宮妃殿下と會津の教育○津輕海峡と生物の分布○駒ヶ嶽噴火概観以上各一冊  
育徳財團寄贈

○古今和歌集上下二冊○まくらの草子一冊

金融研究會寄贈

○生命保險と金融一冊○國際貿易と金融一冊○日英米金融事情一冊

日本讀書協會寄贈

○日本讀書協會々報解説書目一冊○外國新聞と雜誌一冊○歐羅巴、英國の樞密院と内閣支那全國財政會議マルクスト自作農チエツコ建國史一冊

鐵道省寄贈

○長原線建設概要一九二八年ニ於ケル世界各國鐵道概観(支那鐵道の部)○鐵道省年報(第五)○日本全國鐵道線路行程附線路圖○日本案内記關東篇△(門司鐵道局)○増加圖書目錄第四(鐵道省圖書館)以上各一冊  
長崎市役所寄贈

○金解禁に於ける國民の覺悟十冊○長崎港勢要覽○金解禁前後の經濟事業各一冊



外務省寄贈

○近東アフリカ經濟事情調査報告書一、二各一冊○紐育を中心とする小麥の國際取引調査一冊○英國綿業の現状一冊○緬甸の林産一冊○第五十七議會に於ける幣原外務大臣の演說一冊

京都府廳寄贈

○昭和大禮京都府記録上下二冊

農林省寄贈

○開墾地移住者住宅ニ關スル調査一冊○地方林務一班(第十三回)一冊○昭和三年農事統計表一冊○昭和四年茶統計表一冊○第三回近畿二府五縣聯合畜産共進會審査復命書一冊○昭和四年繭統計表一冊

東京商工會議所寄贈

○勞働組合法ニ關スル調査一冊○我國銀行の合同問題一冊○歐洲戰後本邦貿易ノ趨勢一冊

簡易保險局寄贈

○簡易生命保險ノ死亡率ニ關スル調査一冊○國民保險政策一冊○昭和三年度簡易保險局統計年報一冊

臺灣總督府寄贈

○臺灣事情一冊○昭和三年臺灣貿易概覽一冊○臺灣林業史一冊○臺灣森林圖一枚○臺灣學事一覽一冊○臺灣商工統計一冊

朝鮮總督府寄贈

○朝鮮鐵道狀況一冊○生活狀態調査(濟州島)一冊○昭和五年朝鮮要覽一冊○昭和三年朝鮮總督府統計年報一冊

長崎測候所寄贈

○昭和二年長崎地震年報一冊○昭和三年長崎地震年報一冊

日本商工會議所寄贈

○戰後各國關稅政策概說一冊○最近英國關稅政策の傾向一冊

文部省寄贈

○天然記念物調査報告(第九輯植物ノ部)一冊○高等學校卒業生ノ大學入學ニ關スル調一冊○青少年の映畫興行觀覽狀況調査概要(中)一冊○地方學校職員待遇調査一冊

內務省寄贈

○昭和三年大日本帝國港灣統計一冊○昭和三年度直轄工事年報一冊○同附圖一冊○社會事業功勞者事蹟一冊

佐賀圖書館寄贈

○縣立佐賀圖書館和漢分類目錄一冊○郷土誌分類圖書目錄一冊

○大阪工業試驗所報告每號△同所寄贈○東京工業試驗所報告每號△同所寄贈○臺北帝國大學一覽△同大學寄贈○秋田鐵山專門學校一覽△同校寄贈○慶應義塾要覽△同大學寄贈○東京商科大學一覽△同大學寄贈○鳥取高等農業學校一覽△同校寄贈○東京外國語學校一覽△同校寄贈○京都高等工藝學校一覽△同校寄贈○大阪工業大學一覽△同大



學寄贈○樟蔭女子專門學校入學案内及學則△同校寄贈○臺北高等學校一覽△同校寄贈○水産講習所一覽△同所寄贈  
 ○東京文理科大學及東京高等師範學校一覽△同大學寄贈○長崎縣水産講習所業務報告及長崎縣水産試驗所事業報告  
 △同所寄贈○東京工業大學一覽△同大學寄贈○東北帝國大學一覽△同大學寄贈○日露協會報告每號△同協會寄贈○  
 絹業試驗所報告每號△同所寄贈○九州帝國大學要覽△同大學寄贈○京都府立醫科大學一覽△同大學寄贈○神宮皇學  
 館一覽△同館寄贈○商業と經濟每號△長崎高等商業學校寄贈○浦のみるめ一冊△山邊清亮氏寄贈○濱口内閣一冊△  
 同編纂所寄贈○歌集野の花一冊△前田林外氏寄贈○日英交通史概観一冊△武藤長藏氏寄贈○滿鮮學事視察報告一冊  
 △山内久太郎氏寄贈○九州沖繩各縣神職聯合會總會開催報告一冊△長崎縣神職會寄贈○亞米利加をのぞいてきて一  
 冊△回光社寄贈○土佐句ヲニハ集一冊△桐島像一氏寄贈○英國勞動黨と人物一冊△馬郡健次郎氏寄贈○滿鐵社員消  
 費組合十年史一冊△同組合寄贈○軍縮問題の真相一冊△海軍協會寄贈○皇室博物館年報一冊△同館寄贈○歐米南洋  
 鮮支事情一冊△福德生命保險株式會社寄贈○中根式速記一冊△中根正世氏寄贈○古句評釋一冊△福井艸公氏寄贈○  
 全國主要圖書館一覽一冊△日本圖書館協會寄贈○入清日記その他一冊△天野德三氏寄贈○農工用空氣冷却式石油發  
 動機說明修理法一冊△中央貿易合資會社寄贈○香山遺稿一冊△石崎直矢氏寄贈○釋尊降誕一冊△松山佛教青年聯合  
 會寄贈○長崎の青年一冊△長崎市聯合青年團寄贈○日本赤十字社各病院患者統計一冊△日本赤十字社寄贈○靴墨と  
 ゴム靴塗料一冊△三圭社寄贈○取引所法取引所稅法制定及改正議會速記集二冊△長崎株式取引所寄贈○亞酸化鉛ノ  
 新製法三冊△日本電池株式會社寄贈○パン、ツングリズムと同胞の活路一冊△大通民論社寄贈○ぬかご俳句集一  
 冊△ぬかご社寄贈○法華經要義一冊△本多日生氏寄贈○故中村六三郎先生二十三周年法要記念帖一冊△中村松太郎

氏寄贈○青年問題一冊△肥料研究會寄贈○中山文化研究所紀要一冊△同所寄贈○布施辰治一冊△本多久泰氏寄贈○  
 注目すべきメキシコ一冊△吉山基德氏寄贈○立憲青年に訴ふ二冊△宮崎清成氏寄贈○全國文具界大觀仕入篇一冊△  
 文具界社寄贈○復堂遺文上下二冊△柳川書店寄贈○日本運送史一冊△國際運輸株式會社寄贈○昭和五年北海道年鑑一冊  
 △同廳寄贈○鍼灸醫術開業法一冊△山崎直文氏寄贈○日本式ローマ字綴り方公用に就き一冊△田中館愛橘氏寄贈○  
 吾等の知れる後藤新平伯一冊△東洋協會寄贈○馬糞と星一冊△田中清一氏寄贈○長崎養老院概要一冊△同院寄贈○  
 思想惡化防止教育策一冊△北村茂氏寄贈○現行支那行政一冊△日清生命保險株式會社寄贈○長崎縣產業組合要覽一  
 冊△產業組合中央會長崎支部寄贈○臺北高等商業學校開校十週年紀念論文集一冊△同校寄贈○市立名古屋圖書館第  
 八回講演集一冊△同館寄贈○昭和四年長崎稅關外國貿易要覽一冊△同稅關寄贈○兒童文庫の理論並實<sub>一冊</sub>△  
 縣立圖書館寄贈○第十四回名古屋市勸業要覽一冊△名古屋市役所寄贈○昭和四年氣象要覽一冊△中央  
 郵便爲替制度沿革資料(第二輯)一冊△貯金局寄贈○貿易獎勵資料△貿易獎勵會寄贈○和漢圖書分類目  
 目録(第十六冊)一冊△石川縣立圖書館寄贈○日本燈臺表一冊△燈臺局寄贈○清水米藏翁一冊△清水榮麿氏寄贈○洋  
 學の發展と明治維新一冊△吳秀三氏寄贈○御大禮記念兒童文集一冊△臺灣教育會寄贈○大日本山林會山林講演集一  
 冊△臺灣山林會寄贈○卸賣物價統計表一冊○賃銀統計表一冊△商工大臣官房寄贈○龍溪矢野文雄君傳一冊△大阪每  
 日新聞社寄贈○事業年報第五△齋藤報恩會寄贈○國民保險体操講演集一冊△長崎郵便局寄贈○明治以後の解放運動  
 一冊△中央融和事業協會寄贈○昭和典禮寫真帖一冊△大禮使寄贈○馬鈴薯の作り方、水稻原種の案内、麥原種の案



内△長崎縣立農事試驗場寄贈

### 受贈雜誌ノ部

○特許公報○特許發明々細書○實用新案公報○商標公報○以上各每號△特許局寄贈○社會學徒每號△同社寄贈○勞働時報每號△社會局勞動部寄贈○大阪商工會議所月報每號△同所寄贈○警鼓每號△警察協會長崎支部寄贈○兒童研究每號△日本兒童學會寄贈○朝鮮每號△朝鮮總督府寄贈○美術日報每號△同社寄贈○逓信協會雜誌○電氣之友○電氣評論○電氣學會雜誌○電信協會雜誌以上每號△塩谷禎次郎氏寄贈○協和每號△滿鐵社員會寄贈○市立圖書館と其事業每號○増加圖書目錄每號其の他印刷物△東京市立日比谷圖書館寄贈○報德每號△報德會寄贈○郵券每號△林勇スタンブ商會寄贈○同仁及同仁醫學每號△同仁會寄贈○求心每號△誠通社寄贈○罐詰時報每號△日本罐詰協會寄贈○海防每號△海防義會寄贈○詩神每號△田中清一氏寄贈○高知縣立圖書館報每號△同館寄贈○長崎商工會議所報每號△同所寄贈○長崎高等商業學校研究館彙報每號△同館寄贈○博物館研究每號△博物館事業促進會寄贈○無盡通信每號△全國無盡集會所寄贈○市立名古屋圖書館々報及増加圖書目錄每號△同館寄贈○倫理研究△三省堂寄贈○大橋圖書館季報△同館寄贈○開拓者△日本基督教青年會同盟寄贈○米の友△米の研究會寄贈○東洋大學々報△同大學寄贈○舊藩と醫學△深川晨堂氏寄贈○東京高等商船學校案内△同校寄贈○植民每號△日本植民通信社寄贈○國家試驗△育成堂寄贈○劇每號△關西學院劇研究會寄贈○山口圖書館第二十六年報△山口圖書館寄贈○カトリック及聲每號△大浦天主堂寄贈○備付新聞切抜記事索引○備付雜誌記事索引○全國主要圖書館々勢比較表△山口縣明木圖書館寄

六〇

贈○氣象要覽每號△中央氣象臺寄贈○長崎縣農會報每號△同會寄贈○海每號△海發行所寄贈○琵琶界每號△贈○濟生每號△濟生會寄贈○英文庫と其事業每號△静岡縣立英文庫寄贈○建築土木材料每號△建築資料協會寄贈○美育每號△圖書教育獎勵會寄贈○秋田圖書館報每號△同館寄贈○ローマ字世界及ローマ字の日本各每號△日本のローマ字社寄贈○藝林每號△同社寄贈○謠曲新報每號△同社寄贈○長崎稅關外國貿易月報每號△長崎稅關寄贈○日本ラヂオ組合聯合會商報每號△同會寄贈○やなぎ榎研究每號△柳書刊行會寄贈○齋藤報恩會時報每號△同會寄贈○上海時論每號△同社寄贈○覺醒每號△同社寄贈○三田評論每號△同發行所寄贈○外國鐵道調查資料及主要貨物情報每號△鐵道省運輸局寄贈○橫濱市圖書館增加圖書目錄△同館寄贈○大村支部報每號△帝國在郷軍人會大村支部寄贈○土木建築材料商報每號△同會寄贈○ツーリスト每號△ジヤパン、ツーリスト、ビユーロー寄贈○松山商工會議所報△同所寄贈○統計月報每號△臺灣總督府交通局寄贈○包裝荷造の研究每號△大阪包裝荷造協會寄贈○奈良圖書館月報每號△同館寄贈○長崎縣立農事試驗場時報每號△同場寄贈○海の旅每號△大阪商船株式會社寄贈○大阪之工藝每號△大阪府工藝協會寄贈○都山流樂報每號△前川合名會社寄贈○卸賣物價統計月報○貨銀統計月報每號△商工大臣官房統計課寄贈○聲每號○カトリック每號△公教青年會寄贈○ポーランド每號△同公使館寄贈○増加圖書旬報及書香每號△滿鐵大連圖書館寄贈○石川縣立圖書館報每號△同館寄贈○讀書標每號△東京朝日新聞社寄贈○鐵道公論每號△同社寄贈○太陽堂月報每號△中山太陽堂寄贈○日本思想每號△無水庵寄贈○調查月報每號△日本放送協會寄贈○燈光每號△渡邊恒治氏寄贈○第一通信每號△同社寄贈○本邦財界大勢一覽每號△三井銀行長崎支店寄贈○植物研究雜誌每號△津村研究所出版部寄贈○國際時報每號○國際事情每號△外務省情報部寄贈○東京市政調查會圖書室月

六一



報每號△同會寄贈○競馬協會々報每號△帝國競馬協會寄贈○金剛每號△同社寄贈○創作每號△同社寄贈○赤十字社寄贈○商士每號△名古屋商業學校商友會寄贈○人道每號△同社寄贈○心學道話每號△心學參前會寄贈○乃木教報△同社寄贈○療養世界每號△同社寄贈○北辰雜誌每號△第四高等學校北辰會寄贈○日本大學々報每號△同大學寄贈○教育パンフレット每號△野村教育研究所寄贈○林業試驗場彙報每號△同場寄贈○おちば每號△同社寄贈○初等電氣學雜誌每號△江崎正文堂寄贈○海外へ每號△長崎縣海外協會寄贈○前橋市立圖書館報每號△同館寄贈○福井圖書館報每號△同館寄贈○市立名古屋圖書館報及增加圖書目錄每號△同館寄贈○證券週報每號△山一證券株式會社寄贈○文藝時報每號△同社寄贈○原理日本每號△同社寄贈○世と人每號△同社寄贈○隣人之友每號△同社寄贈○長崎教育每號△長崎縣教育會寄贈○長崎教育新誌每號△長崎教育社寄贈○淺海利用研究會々報每號△同會寄贈○富山市立圖書館增加圖書目錄每號△同館寄贈○海外之日本△同社寄贈○警醒時論每號△同社寄贈○縣立奈良圖書報每號△同館寄贈○福井評論每號△同社寄贈○電氣學會雜誌每號△同會寄贈○東京商工會議所圖書室彙報及商工報每號△同所寄贈○耕地每號△長崎縣耕地協會寄贈○月刊大タイムス及小タイムス每號△大小タイムス出版發行寄贈○助産の友每號△東京府産婆會寄贈○神戸市立圖書館增加圖書目錄每號△同館寄贈○長崎氣象月報每號△長崎測候所寄贈○四日市商工會議所月報每號△同所寄贈○花巻温泉ニユース每號△同會寄贈○組合金融每號△同研究寄贈○勸業時報每號△日本勸業銀行長崎支店寄贈○國立公園每號△同協會寄贈○大日光每號△同發行所寄贈○産

堂寄贈○理想每號△同社寄贈○千葉縣圖書館報每號△同館寄贈○經濟月報每號△日本商工會議所寄贈○海軍と航空每號△同社寄贈○九州公論每號△同社寄贈

受贈新聞ノ部

○長崎新聞每號△同社寄贈○長崎日々新聞每號△同社寄贈○東京日之出新聞每號△同社寄贈○夕刊長崎民友每號△同社寄贈○新長崎每號△同社寄贈○北海タイムス每號△同社寄贈○咸南新報每號△同社寄贈○臺灣日々新聞每號△同社寄贈○大分新聞每號△同社寄贈○上海日報每號△同社寄贈○福岡日々新聞每號△同社寄贈○對馬日々新聞每號△同社寄贈○島原新聞每號△同社寄贈○京城日報每號△同社寄贈○鹿兒島新聞每號△同社寄贈○鹿兒島朝日新聞每號△同社寄贈○勞力新聞每號△三菱長崎造船所寄贈○佐賀日々新聞每號△同社寄贈○佐賀毎日新聞每號△同社寄贈○滿洲日報每號△同社寄贈○北鮮時事新聞每號△同社寄贈○九州新聞每號△同社寄贈○養正時評每號△同社寄贈○長崎カトリック教報每號△同社寄贈○京都帝國大學新聞每號△同大學寄贈○國民振興新聞每號△同社寄贈



終

Faint, illegible text on the reverse side of the page, possibly bleed-through from the other side of the paper.